

2021-2030...

ふらの版

みらいを旅する

NOTE



第6次富良野市総合計画

【中期基本計画】

Furano City Master Plan



まちの、そして
わたし自身の旅帖です。



ふらの版 みらいを^{たび}旅する NOTE

目的地がある「旅」もいい
目的地を決めない「旅」もいい
目的は場所でなくたっていい

一歩一歩
その歩みが「旅」をつくる

答えがない時代
まさに私たちは
その時代を旅している

わたしたちが歩む道に
未来がつくられる

富良野の未来を
旅しよう

一歩を踏みだそう

旅のノートを
埋めていこう

2026 2027 2028 2029 2030

1							January
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

2						February
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3							March
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
				1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

4							Apr
Sun	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						

5							Mo
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
		1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

6							Jun
Sun	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
					1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

7							Jul
Sun	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

8							August
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
			1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

9							September
Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
						1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11							November
Sun	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
				1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30		

12							December
Sun	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
						1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	

2030

①	歳
②	歳
③	歳

みらいを旅する ための7の質問



1. 100年後にも残したい富良野の美しさって何ですか？...

-
-
-

2. あなたが「みらいを旅する」と聞いて想像するワクワクはどんなことですか？...

-
-
-

3. みらいの旅のために、どんな情報や道具を準備しますか？...

-
-
-

4. 旅のための健康・体力づくり、何をしますか？...

-
-
-

5. まだ富良野で体験していないコトってありますか？...

-
-
-

6. 旅の途中、困難にぶつかった時のために、どんなことを考えておくとよいですか？...

-
-
-

7. あなたにとっての「みらいを旅する」一歩目は何ですか？...

-
-
-



*Concept & Plan
For Traveling to the Future*

まち（富良野市）が次の１０年
「みらいを旅する」コンセプトと
プランを知っておこう

※次の１０年、「みらいを旅する」ための富良野市のコンセプトとプランが「総合計画」です。

目次

0. はじめに（「みらいを旅する」前に）	1
1. 目次	9
2. 総合計画の概要	10
3. 策定の前提・大切な視点	11
4. 基本構想	16
5. 人口ビジョン	25
6. 中期基本計画	35
6-1 概要	36
6-2 重点施策	37
6-3 基本施策	66
7. 市長メッセージ	122
8. NOTE（参考資料）	123

2. 総合計画の概要

「総合計画」は、地方自治体経営の最上位に位置付けられる計画で、中長期的な視点に立ち、新たな時代に対応できるまちづくりの指針となるものです。

総合計画は、中長期的なまちづくりの方向性と基本的な考え方を示す「基本構想」と、基本構想を踏まえて施策を体系的に示す「基本計画」から構成されています。

さらに基本計画は、特に力を入れて取り組む「重点施策」と、着実に取り組む「基本施策」に分けられます。

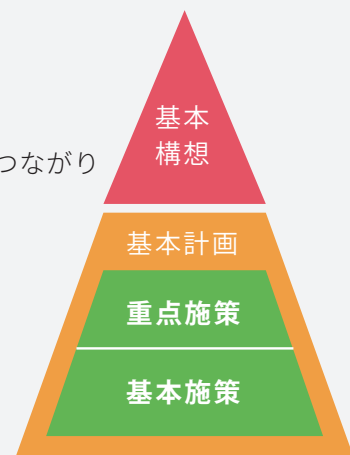
※人口減少克服・地方創生を目的とした「第2期富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「第6次富良野市総合計画」と密接な関係があるため、基本計画内の重点施策として位置付けています。

[基本構想]

- まちづくりスローガン：まちづくりの方向性、合言葉
- まちづくりメッセージ：スローガンに込めた思い、コンセプトとのつながり
- まちづくりコンセプト：まちづくりの基本的な考え方、観点

[基本計画]

- 重点施策：基本構想の実現に向けた重要課題に対し、特に重点的・分野横断的に取り組む施策
- 基本施策：基本構想の実現に向けた各分野の主要な課題に対する施策



[期間]

- 基本構想：10年間
- 基本計画：前期2年、中期4年、後期4年

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
計画期間	第6次富良野市総合計画 基本構想									
	前期基本計画		中期基本計画				後期基本計画			

総合計画策定の 前提・大切な視点

少子高齢化や人口減少、環境問題などからくる
複雑な社会課題、テクノロジーの急速な発展など
これまでとは社会構造が大きく変わってきています。

今までと同じ方法や考え方だけでは
現状の維持すらも難しい時代が既に訪れています。

これまでに実施した、まちづくり 100 人協働ワークショップ や
市民意識調査、地域懇談会などの声の分析、世の中の動向を
広く収集することで、総合計画策定にあたっての
「前提・大切な視点」を言語化することとしました。

総合計画策定の前提・大切な視点

01



未来は創るもの・構造変化に対応する新スタイルへの移行

- 人口減少をチャンスととらえる
- 「柔軟性」×「スピード」
- 「チャレンジ」を応援する
- 「真剣さ」×「遊び心」による創造性

02



「ひと」が中心であること

- 主役は誰か？
- 未来づくり人材が育つ環境とは？

03



「つながり」のアップデート

- 真の協働とは？
- 目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰^{ふかん}し、好循環を生み出す
- 未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる

04



富良野らしいユニークさがあること

- 美しい風景・自然を 100 年後の未来に
- 先人たちの知恵・歩みをアップグレード
- 地球の住人として富良野がリードできること

未来は創るもの・構造変化に対応する新スタイルへの移行

人口減少をチャンスととらえる

少子高齢化により、国内全体および富良野においても人口減少が進む。担い手不足、一人当たりの行政サービス負担の増加、ハードの老朽化などが予想され、従来型の課題解決での限界が訪れている。「人口が少ないこと＝悪」ととらえず、創造的な動きやテクノロジーの活用により、成行きで後退してしまうことがないような転換が必要となる。「未来は、誰かが与えてくれるもの」から脱却し、「自ら目指し創る意識」のもと、新スタイルを確立していくことが重要。課題対応から「創り出す未来」へ。

「柔軟性」×「スピード」

先が読めずに、不確実で正解がない時代。やってみないと、何が確からしいかわからない時代。外部環境の変化もめまぐるしく、過去の成功体験や手法でうまくいかなって来ている。

まずやる機運を高め、安全な失敗を尊重する。やってみて、都度修正し、未来を創り出す。

「チャレンジ」を応援する

富良野にはチャレンジを応援する土壌がすでにある。これからの時代には、一つの答えを探るよりも、「コト」が起こる実際の動きが重要。一人ひとりのチャレンジを自然と応援できる寛容な環境を大切にする。

「真剣さ」×「遊び心」による創造性

真剣さの中に、遊び心や余白があることで創造性は生まれる。どうやって、時間や心の余白をつくるか、遊び心を取り込めるか。未来づくりを楽しもう。

「ひと」が中心であること

主役は誰か？

「より良い未来を」と願う一人ひとりの気持ちに寄り添っていく。富良野に住む一人ひとり及び、富良野に関わる一人ひとりが人生の「主人公」となることを応援する。どれだけテクノロジーやデジタルが進化する時代においても「ひと」が中心にあることを大切にする。

「未来づくり人材」が育つ環境とは？

変化の時代、構造が変わる時代において、自ら気づき、考え、行動を起こし、動きを修正し続けられる「ひと」が求められる。そのような人材が一人でも多く育つ環境そのものを皆で育む。

総合計画策定の前提・大切な視点

つながりのアップデート

03

真の協働とは？

「協働」が求められる社会背景を理解する。これまでも、行政と市民の関係を模索しながら歩んできた。
「何のための協働か」「あるべき協働の形とは何か」を探求し続け、「協働」のアップデートをはかる。

目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰（ふかん）し、好循環を生み出す

複雑な課題は、様々な要素と要素が繋がりあって、表面上見えにくい状況と重なり合って起こっている。一つの側面からの対処療法的なアプローチでは、本質的に解決に至らないことも多い。要素同士のつながりを大局的に明らかにし、ヒト・モノ・カネ・情報など、「好循環」を生み出すループのデザインを行なっていくことが求められる。

未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる

協働、好循環を生み出すためには、個人・組織・立場・住む場所・地域などの枠を越境し、つながりを創出していく必要がある。富良野に住む人、住んだことがある人、訪れたことがある人、来てみたいと思う人、興味を持っている人、まだ知らない人たちとのつながりに、未来づくりへの可能性を見出す。

富良野らしいユニークさがあること

04

美しい風景・自然を 100 年後の未来に

複数の山系に囲まれた 360 度のパノラマ、豊かな水系、農地が織りなす美しい景色、月ごとに表情を変える季節の奥行き。世界から「ひと」が集まる魅力、住む人が誇りに思える魅力が富良野にはある。住む人も訪れる人も、その豊かな恩恵を受けている。この美しい、あたりまえの環境を、「100 年後の未来／子供たちに今以上に美しくして残していく」姿勢を忘れない。

先人たちの知恵・歩みをアップグレード

先人たちから引き継ぐ「自然との共生」の知恵を最大限に活かし、「持続可能」な地域づくりをアップグレードしていく。

地球の住人として富良野がリードできること

自然との共生を前提としたさまざまな取り組みや環境がすでに富良野にはある。その環境に磨きをかけ続けながらも、富良野の枠を超えて、社会・世界に発信し、リードできる可能性をカタチにしていく。



総合計画の中身を見ていこう・・・。

第 6 次富良野市総合計画

基本構想

(令和 3 年度～令和 12 年度)
2021-2030



総合計画策定の「前提・大切な視点」をもとに、これから 10 年間のまちづくりの方向性と基本的な考え方を示す「基本構想」があります。

基本構想では、「まちづくりスローガン」と「まちづくりコンセプト」を言葉と図で表し、さらに様々な立場を越えて共創していけることを願い「まちづくりメッセージ」を添えています。

まちづくりスローガン

「美しい」のその先へ。
WA! がまちふらの

まちづくりメッセージ

富良野には、「美しい」がいっぱいある。

美しい「自然」、美しい「こころ」、美しい「くらし」…。

100年後にも残したい
富良野にしかない「美しさ」。

もっとみがける。もっともっと創造できる。
まだ見ぬ「美しさ」。

ひとりが輝く。
つながることでさらに輝く。
輪になることで輝きつづける。

輪がひろがっていくことで、
予想もできない「わっ！」が起こるかも。

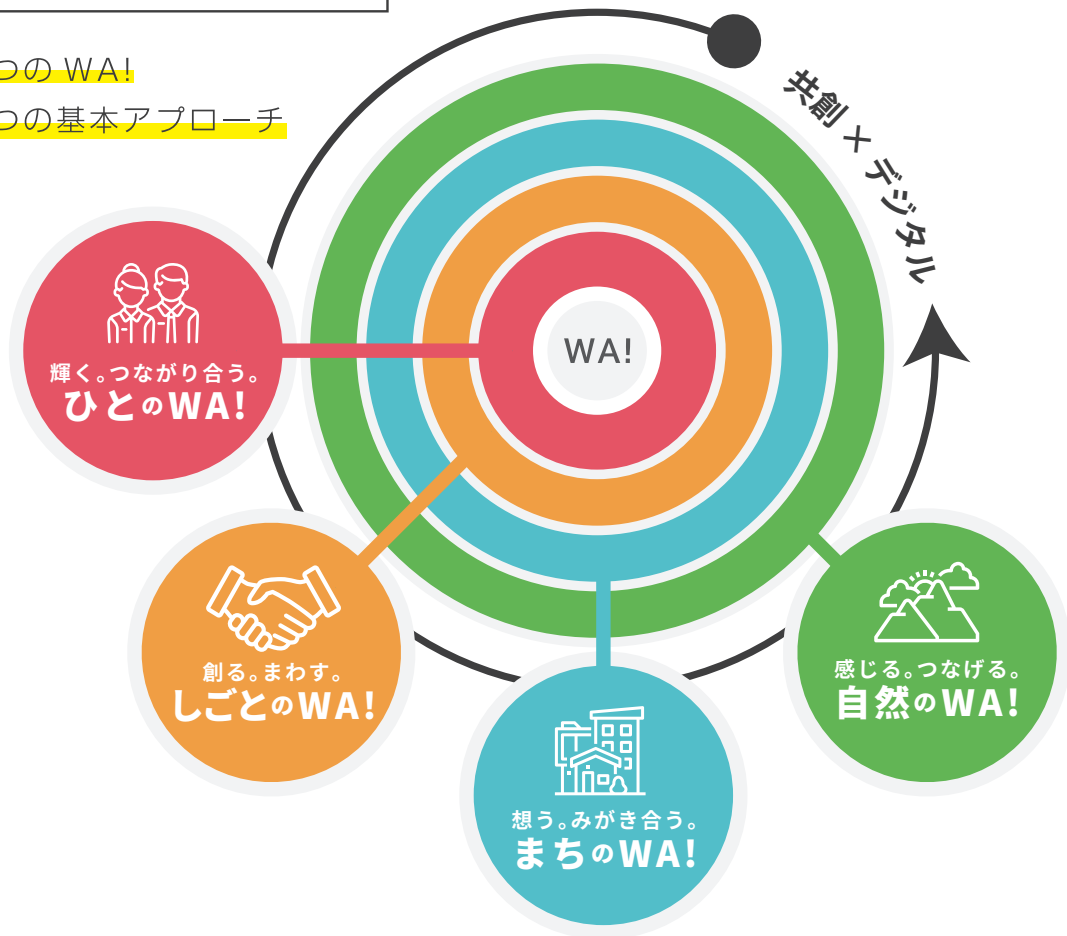
そんなふらののに住みつづけたい。
そんなフラノとつながってみたい。
そんな Furano を感じたい。

「美しい」のその先をみんなで見にいこう。

まちづくりコンセプト

4つのWA!

2つの基本アプローチ



WA!

つながる（輪）

驚き（わっ!）

循環する（環）

やさしい（和）

誇れる（我が）

4
つ
の
WA!



輝く。つながり合う。
ひとのWA!

輝く。

一人ひとり、違っていい。
あらゆるひとが、輝きを増すよう
に支援・応援し合う。

つながり
合う。

枠を越えてつながり合うことで
新しい輝きが生まれる。



創る。まわす。
しごとのWA!

創る。

新たな付加価値を創造する。
新しいしごとを創り出す。

まわす。

地域を越えて
「ひと・カネ・価値」の循環を
創り出す。



想う。みがき合う。
まちのWA!

想う。

現在、過去、未来、それぞれの地域。
富良野が持つ魅力を大切に想う。

みがき
合う。

大切にしてきたものをみがき
合い、新たなスタイルを創造
する。



感じる。つなげる。
自然のWA!

感じる。

恵まれた自然から受ける恩恵を
感じる。小さな環境の変化を見逃
さない。

つなげる。

豊かな自然環境を未来へつなげ
る。新しい価値へとつなげる。

2
つ
の
基
本
ア
プ
ロ
ー
チ



共創

複雑な課題に対しあらゆる枠を
越えて「共創」することで新たな
一歩目を創り出す。

デジタル

持続可能なまちづくりに向けて、
「データ」や「テクノロジー」の
利活用を推進する。



輝く。つながり合う。ひとのWA!

輝く。

一人ひとり、違っていい。
あらゆるひとが、輝きを増す
ように支援・応援し合う。

つながり 合う。

枠を越えてつながり合う
ことで新しい輝きが
うまれる。

ことばが持つ意味

<輝く。>

- 「輝く。」とは・・・
 - ・きらきら／光を放つ／注目／まぶしい。
 - ・イキイキとしている／楽しそう／笑顔／いきがい。
 - ・何かに一生懸命打ち込んでいる姿。
 - ・成長している様・成熟していること。
- 「一人ひとり、違っていい。」
 - ・個性や多様性があることを認める。
 - ・認め合う／承認されることでさらに輝く。
- 「支援・応援し合う。」
 - ・一方的なヘルプだけではなく、力を信じ、自立できるよう、
応援・支援し合う。
 - ・「輝き」がある情報を知り、出番をつくってあげる。

<つながり合う。>

- 「つながり合う。」とは・・・
 - ・結ばれて一続きになる／継続する／関係がある／絆。
 - ・共感がある。
 - ・同じ目的を持つ。
- 「枠を越えて」
 - ・立場や年代、様々な壁を取り払う。
 - ・自治体の枠や地理的制約などを取り払う(道外、海外・・・)



創る。まわす。しごとのWA!

創る。

新たな付加価値を創造する。
新しいしごとを創り出す。

まわす。

地域を越えて
「ひと・カネ・価値」の循環
を創り出す。

ことばが持つ意味

<創る。>

- 「創る」とは・・・新しいものを生み出す／興す／New／産む
／挑む／育てるなど。
- 「新たな付加価値を創造する。」
 - ・今あるものを伸ばす、見直す、プラスアルファを創る。
 - ・「農業」×「観光」など掛け合わせを行う。
- 「新しいしごとを創り出す。」
 - ・新規起業家の創業場所として／今までにない新しい仕事
の創出の場として
 - ・挑戦できる機会・応援がある。
- 「創る」のその先は？稼ぐ≒付加価値。
 - ・所得が上がることで将来への安心、活力につながる。

<まわす。>

- 「まわす」とは・・・循環
 - ・「循環する経済」を創り出す。
 - ・様々な要素が相互に良い形でつながり合い、持続性がある
状態を創る。
- 「地域を越えて」
 - ・地域内外を越えて、ボーダーレスに循環を創る。
- 「ひと・カネ・価値」
 - ・経営視点をもって、「ひと」の循環／「カネ」の循環／
「価値(=モノやサービスの価値)」の循環を創る。



想う。みがき合う。まちのWA!

想う。

現在、過去、未来。それぞれの地域。富良野が持つ魅力を大切に想う。

みがき合う。

大切にしてきたものをみがき合い、新たなスタイルを創造する。

ことばが持つ意味

<想う。>

- 「現在、過去、未来」
 - ・過去と今の「美しさ＝魅力」を再確認し、未来へ。
- 「それぞれの地域」
 - ・地域によって特徴があり、想い(郷土愛)はそれぞれ。
 - 違いを大切にしていく。
- 「富良野の持つ魅力」
 - ・魅力とは? 自然、人、文化、生活スタイル・・・など。
 - ・一人ひとり感じる魅力は別々。多様性。
 - ・型にはめない富良野の「美しさ」。

<みがき合う。>

- 「大切にしてきたものをみがき合い」
 - ・これまで積み重ねられてきたものを再認識し、自分本位になることがないよう、「まち」にとってより良い形にしていく。
- 「新たなスタイルを創造」
 - ・今までのやり方のままでは持続・維持は難しい。個人、地域が持続的に暮らせる形を創造する。
 - ・短期で捉えると日常的なスタイルだが、長期で捉えると、人生のスタイル。日々の暮らしの豊かさだけでなく、人生の豊かさ。新たな豊かさの定義を再考。
 - ・一度外に出て、成長し、帰ってこれる(帰って来たい)富良野の魅力。
 - ・共創・デジタル利活用による「まち磨き」。



感じる。つなげる。自然のWA!

感じる。

恵まれた自然から受ける恩恵を感じる。小さな環境の変化を見逃さない。

つなげる。

豊かな自然環境を未来へつなげる。新しい価値へとつなげる。

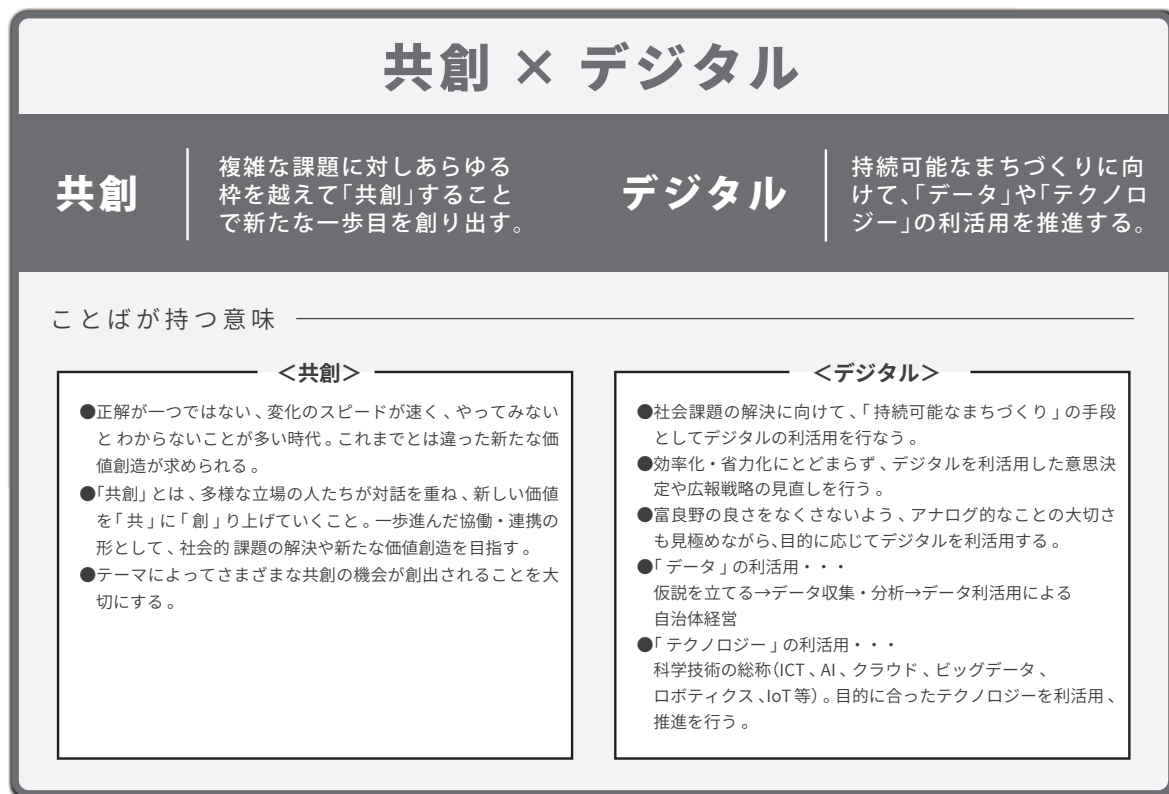
ことばが持つ意味

<感じる。>

- 「自然」は、まず感じてみる事が大切。
- どこで感じるか?
 - ・「五感」で感じる・・・視/聴/味/触/嗅覚。
 - ・「心」で感じる・・・想像する。本質をつかむ。
- どのような感情が生まれるか?
 - ・残したい気持ち/誰かと共有したい気持ち。
 - ・癒される気持ち/気持ちをリセットできる。
 - ・「美しさ＝魅力」「あたりまえじゃない」「恩恵を受けている」ことへの感謝の感情など。
- 「小さな環境の変化」
 - ・積み重ねてある「今」の自然の持つ豊かさを残していくために、変化をキャッチする。

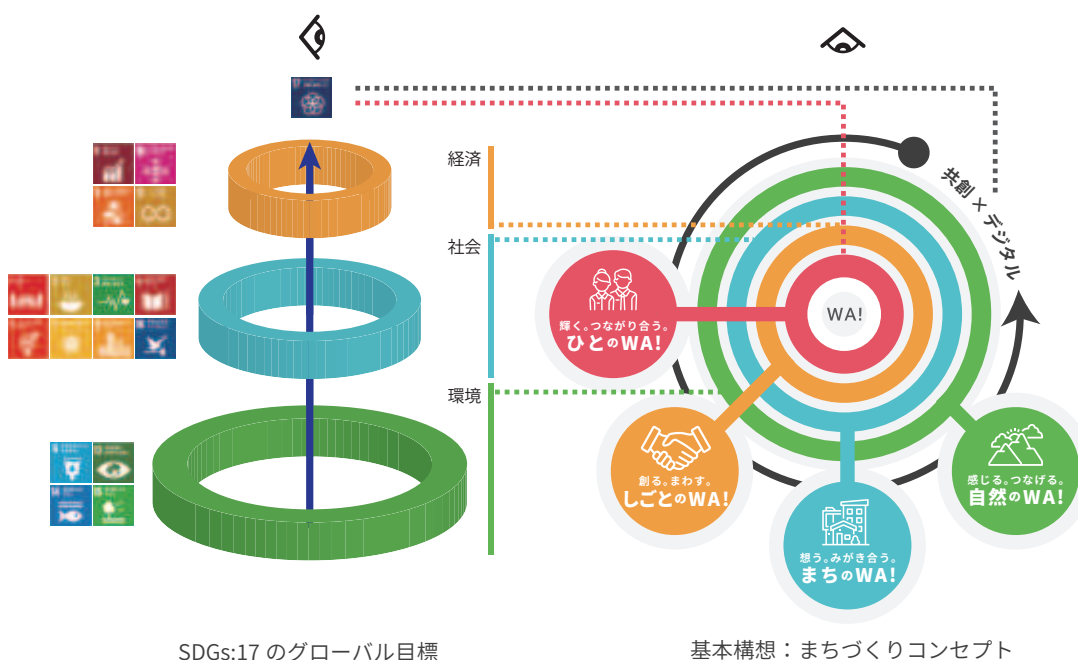
<つなげる。>

- 「つなげる」・・・時間的につなげる/物理的につなげる。
- つなげるものは何か?
 - ・富良野にしかない「美しさ＝魅力」未来につなげていく。
 - ・自然があることで生まれる「新しい価値や魅力」を「ひと・しごと・まち」につなげていく。
 - ・エネルギーと営み・生活の循環。
 - ・農業と自然の共生。
 - ・災害と共生しながらも安心して暮らせるまち。



基本構想の「まちづくりコンセプト」図は、SDGs との関連性も表現しています。

※SDGs エスディージーズ：Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。





「共創」って何だろう？

少子高齢化・人口減少など、急速に社会構造が変化し、地域やコミュニティの課題が複雑化しています。従来の方法のみでは限界があり、行政の力だけでは課題を十分に解決することは困難になってきています。

未来において、より良い社会をつくり出していくためには、行政と民間事業者と市民とが、より高度な形で協働していく必要があります。実際に、官民共創の流れは世界的なものになってきています。

「共に新たな価値を創造していく」ことで、課題解決につながっていく「コト」が生まれることこそが「共創」の概念です。



「共創」のためのキーワード KEYWORD

★オープンにつながる

多様な方が集まる。肩書や序列などではなく、フラットな関係。それぞれの持つ経験や能力、想いなどによって化学反応が起こりやすい場をつくる。

★対話

絶対の答えがない複雑な課題。
何が起きているか構造をみんなで探り、
ありたい未来を描く。
好奇心と探求心で対話を深める。

★(できることを)やってみる・改良する

対話によって浮かび上がってきた
アイデアを、実際に具現化していくために、
役割を適切に分担しながら試行してみる。
やってみて見えてくることをもとに、
さらに改良していく。



人口ビジョン

人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付けられます。

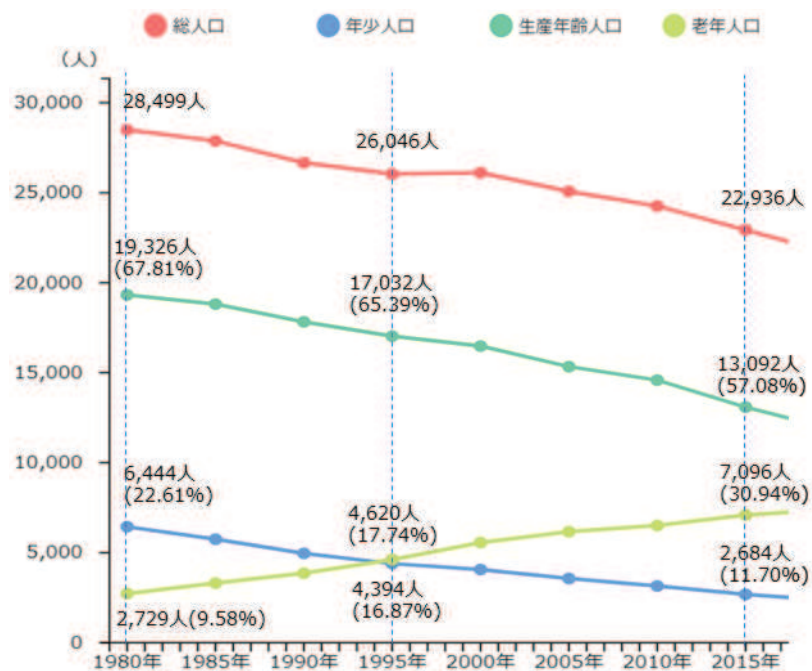
人口ビジョンでは人口のメカニズム（仕組み）を分析・考察し、目指すべき将来の方向性を定めることで、富良野市の将来人口が結果としてどの程度になるのかを想定するものであり、各施策のアウトカム（成果）として、重要な指標のひとつとなります。

※**地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）**の協力により、人口メカニズムの分析・人口ビジョンの設定を行いました。

1. 総人口および年齢 3 区分別人口の推移と将来人口推計

1-1 富良野市の総人口と年齢 3 区分別人口の推移

- 1980 年 28,499 人、1995 年 26,046 人、2015 年 22,936 人と人口減少は加速しています。
- 1995 年に老年人口が 4,620 人、年少人口が 4,394 人と構成比が逆転し、年少人口よりも老年人口が占める割合が高くなりました。
- 年少人口は、1995 年の 16.87% から 2015 年の 11.70% に大幅に減少し少子化が加速、老年人口は 1995 年 17.74% から 2015 年 30.94% と急激に高齢化が進んでいます。

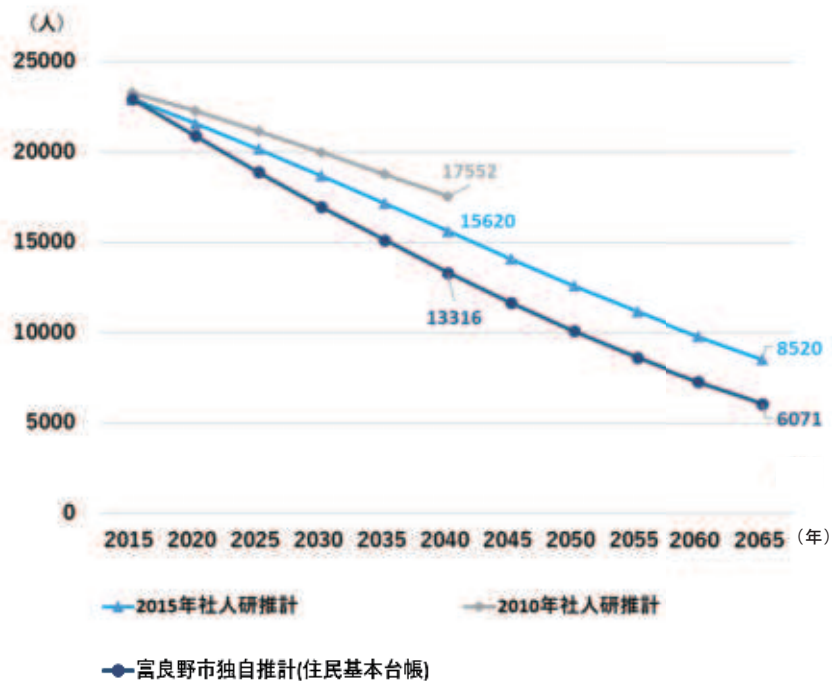


1. 総人口および年齢 3 区分別人口の推移と将来人口推計

1-2 富良野市の将来人口推計

■ 国立社会保障・人口問題研究所（以下社人研）の富良野市の 2010 年と 2015 年の国勢調査を基にした推計では、2015 年推計の方が人口減少幅が拡大しています。

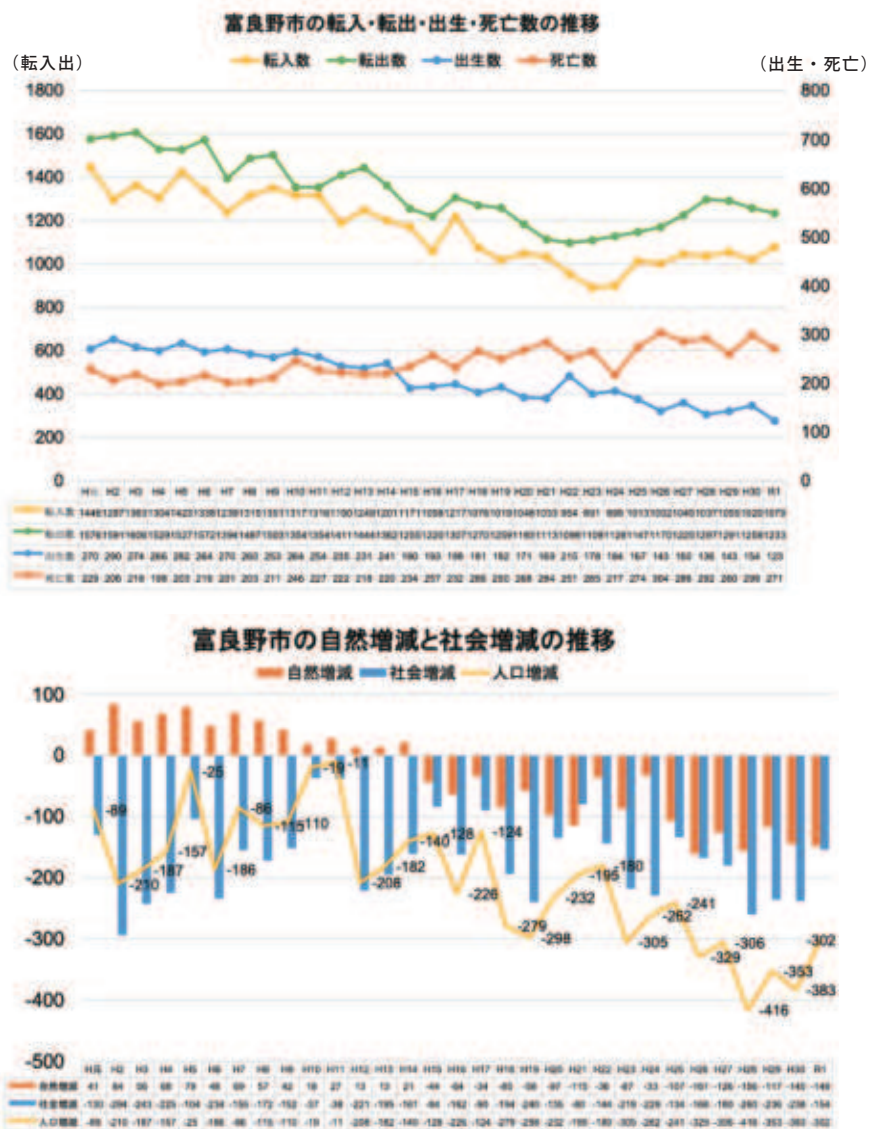
■ 国から提供されている「まち・ひと・しごと創生本部ワークシート」を使い、富良野市の住民基本台帳（2015-2019 年平均）や出生率の実態をもとに算出した推計人口は、社人研 2015 年推計人口よりもさらに減少幅が拡大しており、実態として社人研推計よりも人口減少が加速しています。



2. 人口動態

2-1 富良野市の自然増減と社会増減の推移

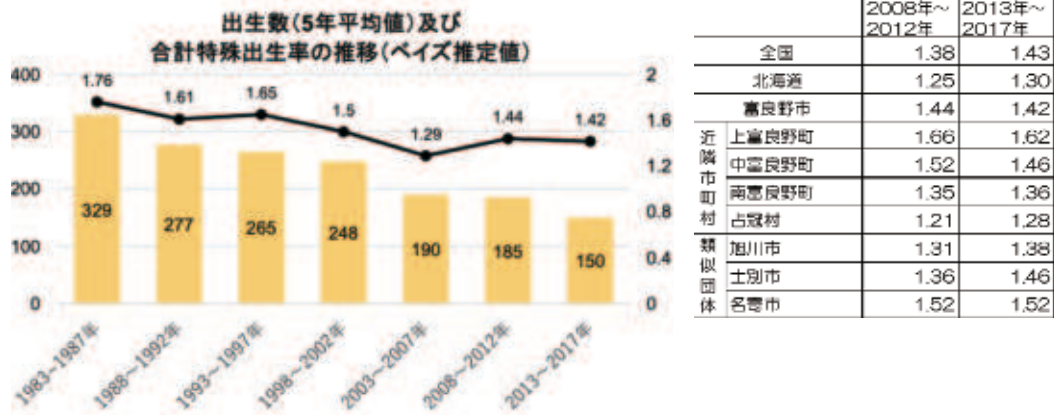
- 少子化に伴い、出生数は減少傾向、高齢化に伴い死亡数は増加傾向となっています。
- 平成 14 年度(2002 年)までは自然増でしたが、それ以降は自然減となり、人口増減における自然減の影響は年々強まっています。
- 社会減は景気や求人動向等に左右されて変化していると考えられますが、自然減の影響よりも大きくなっています。



2. 人口動態

2-2 自然増減（出生数・合計特殊出生率の推移）

- 出生率は、富良野市は2008年からは1.4程度で推移し、全国平均とほぼ同じ全道平均に比べると高くなっています。



2-3 富良野市の社会増減：富良野市の転入－転出

※住民基本台帳 H27-R1(2015-2019) 累計値

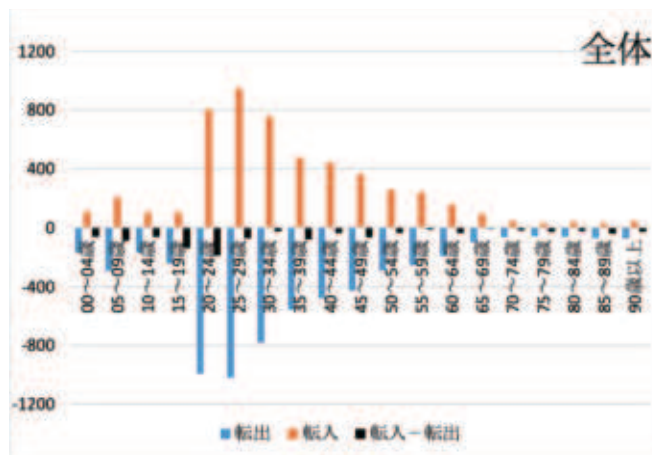
- 近隣市町村よりも札幌圏・旭川圏・道外・国外の転出入の方が多くなっています。
- 近隣市町村からは転入超過の傾向ですが、札幌圏・旭川圏・道外などへは大きく転出超過となっています。
- 近隣からの転入超過に比べ、札幌圏・旭川圏・道外などへの転出超過が大きく、市全体では転出超過になっています。



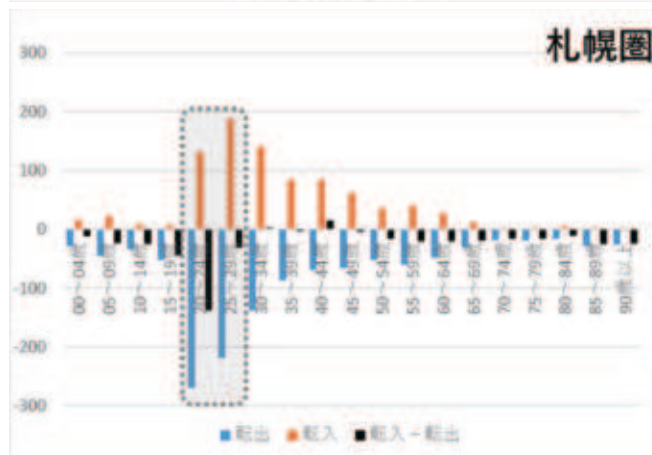
2. 人口動態

2-4 富良野市の社会増減：5 歳階級別転出入状況

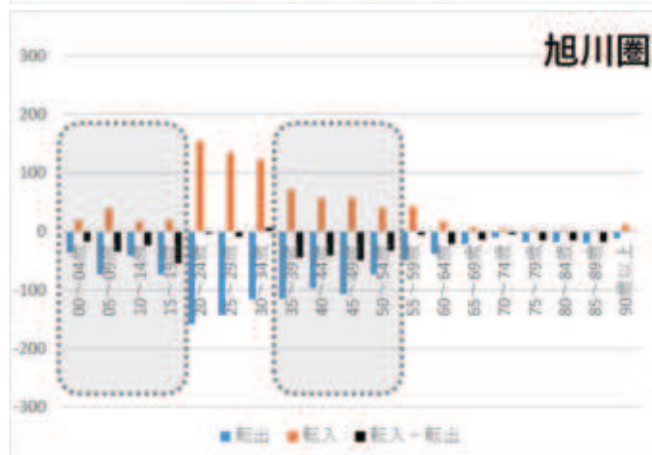
※住民基本台帳 H27-R1 (2015-2019) 累計値



■全世代で転出超過となっています。



■札幌圏にはほとんどの世代が転出超過、特に 20～24 歳の転出超過が大きくなっています。高齢者の転出超過も少なくありません。



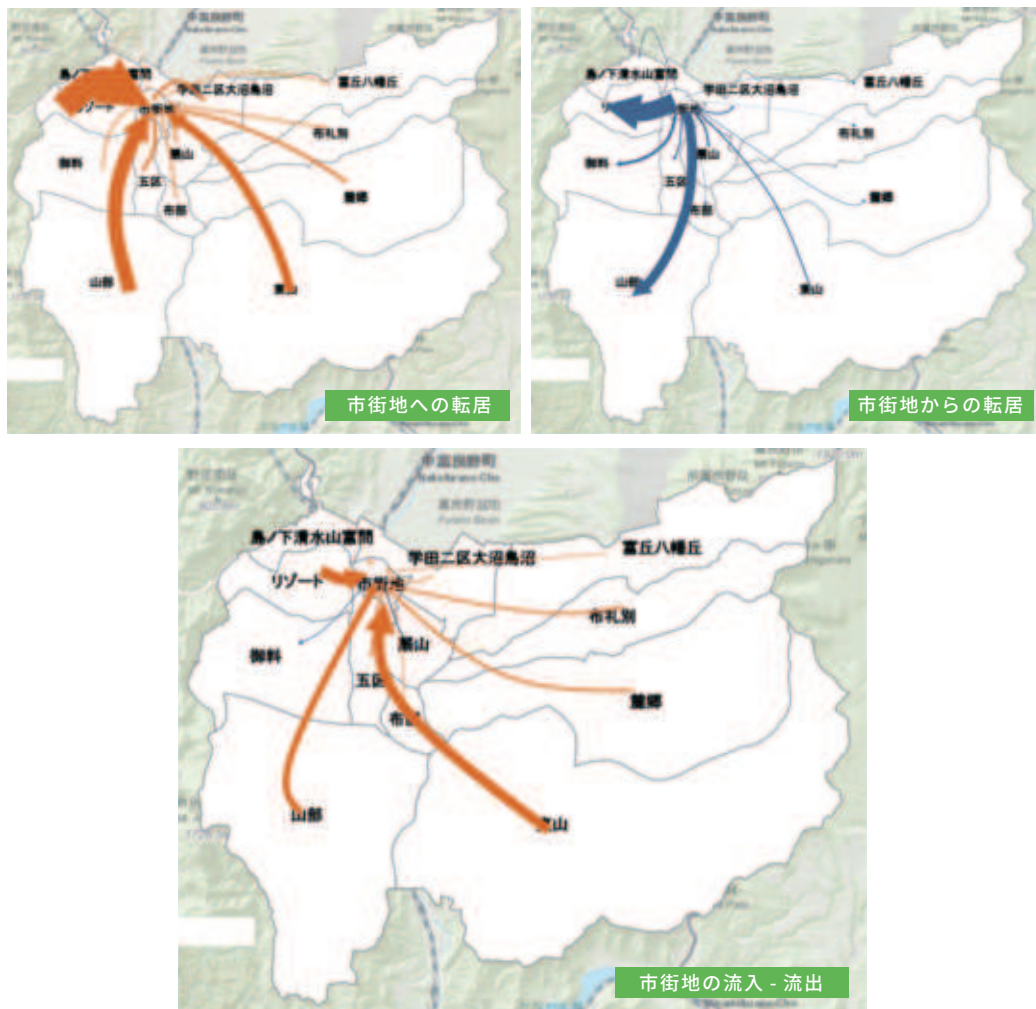
■旭川圏にはほとんどの世代が転出超過となっている中で、特に 19 歳以下の子供と 35～54 歳の転出超過が大きくなっています。

2. 人口動態

2-5 富良野市の社会増減：市内の転居状況

※住民基本台帳 H27-R1(2015-2019) 累計値 転居者数が 10 以上のみ表示

- 市街地以外の地区から、市街地に人口が集まっています。
- リゾート地区、山部地区は市街地からの転居、市街地への転居も多いですが、やや市街地への転居が多くなっています。
- 東山地区は、市街地への転居が市街地からの転居よりも圧倒的に多く、市街地に吸収される形で人口減少が進んでいます。



3. 目指す将来人口ビジョン

3-1 主な方向性

- 出生率 1.47 を維持する
- 20～40代の転出超過を抑える

■ 出生率の維持

- ・現在の人口を維持するには、出生率を約40%アップする必要があり、現実性は低いと考えられる。このことから、最低でも現状の出生率を維持しながら、出生数を減少させないために社会移動を抑えていくことが大切です。

■ 転出超過の抑制

- ・転出の抑制
 - 20～40代の労働・子育て世代の転出を抑制することが必要です。
- ・転入の促進
 - 富良野の持つ魅力を最大限活かした移住や関係人口の創出が必要です。

3. 目指す将来人口ビジョン

3-2 20～40代の純移動率の設定

- 20～40代の労働・子育て世代の転出超過と、それに伴う出生数の減少を防ぐために、「20～40代の純移動率」をどの程度上昇させる必要があるか算定しました。
- 現在の成り行き（富良野市独自推計ベース）から、各社人研予測相当にするためには15～44歳（20～40代）の純移動率を、8.3%（2015年社人研予測相当）、14.1%（2010年社人研予測相当）上げる必要があります。
- 新しい人口ビジョンでは、20～40代の各純移動率の上昇分として富良野市独自推計ベースの予測よりも+8.3%（社人研2015年予測相当）と設定します。

	富良野市独自推計 （住民基本台帳）	2015年社人研予測相当	2010年社人研予測相当
出生率	1.47	1.47	1.47
2040年予測人口	13,316	15,635	17,570
15～44歳純移動率の上昇割合	0.00%	8.30%	14.10%

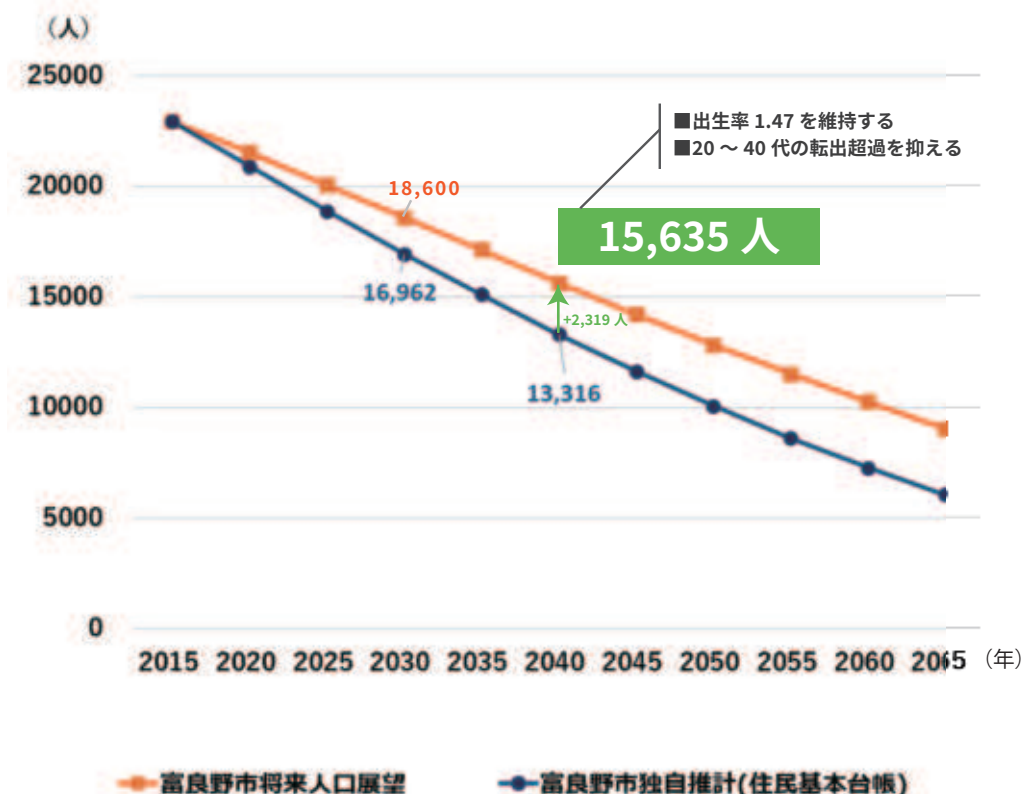


3. 目指す将来人口ビジョン

3-3 将来人口展望

- 20～40代の労働・子育て世代の転出超過と出生数の減少を抑制し、出生率は現状を維持することで、2015年社人研推計人口相当の人口推移となることを目指します。
(2040年時点で15,635人)
- 富良野市独自推計ベースによる予測と比べて、20～40代の純移動率を+8.3%
(2040年時点で+2,319人相当の増加)を目指します。

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
富良野市 将来人口展望 (20～40代の純移動率 +8.3%)	富良野市独自推計	20,914	18,895	16,962	15,126	13,316	11,644	10,084	8,624	7,288	6,071
	2015年社人研予測相当	21,539	20,069	18,600	17,146	15,635	14,214	12,851	11,526	10,269	9,047
	増加目標-総数	624	1,174	1,638	2,020	2,319	2,570	2,767	2,901	2,981	2,976
	増加目標-男	306	579	816	1,015	1,167	1,295	1,396	1,463	1,499	1,491
	増加目標-女	318	595	822	1,005	1,152	1,275	1,370	1,438	1,482	1,485



第 6 次富良野市総合計画

中期基本計画

(令和 5 年度～令和 8 年度)
2023-2026



基本
構想

基本計画

重点施策

基本施策

中期基本計画の概要

【計画の役割】

- 中期基本計画は、基本構想に基づく計画として、まちづくりスローガンに掲げた『「美しい」のその先へ。WA(わ)！がまち、ふらの』の実現に向けて、まちづくりコンセプトに沿って、取り組むべき施策を整理し、体系的に示すものであります。

【計画の期間】

- 中期基本計画の期間は、令和5年度から令和8年度の4年間とします。

【計画の構成】

- 基本計画の体系は、特に力を入れて取り組む「重点施策」と、着実に取り組む「基本施策」に分けられます。
- 重点施策は、「第3期富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と位置づけ、基本構想の実現に向けた重要課題に対し、特に重点的・分野横断的に取り組む施策として整理し、めざす状態・主な施策・重要業績評価指標（KPI）等で構成しています。
- 基本施策は、基本構想の実現に向けた各分野の主要な課題に対する施策として整理し、施策毎に目的・成果指標・展開方向等で構成しています。
- 重要業績評価指標（KPI）及び成果指標は、各施策の代表的なものを設定します。

【計画の財源】

- 中期基本計画の推進に関わる財源は、財政需要額調査や予算編成過程において調整します。
- 未来に向けて積極的なまちづくりを行っていくためには、自主財源の確保が必要となりますので自主財源の獲得に向けた体制強化を図ります。

【計画の検証方法】

- 中期基本計画の施策について、わかりやすさや客観性の観点から、重要業績評価指標（KPI）及び成果指標について進捗管理を行います。
- 施策の検証については、課題の種類を見極めながら、PDCA等の活用による検証を行います。
- 効果の検証については、富良野市総合計画・総合戦略有識者会議においても実施します。

【個別計画との整合性】

- 市政をより効果的に推進していくために、福祉、教育、産業など特定の政策課題について取り組む個別計画が各部門で策定されています。この個別計画では、より具体的、詳細に施策の推進内容を定めています。
- 総合計画は、本市の最上位の計画となるものですが、総合計画がこれらの個別計画と一体となって進められるよう、また、個別計画が総合計画の推進を補完できるよう、それぞれが整合性を保ちながら策定されています。
- 今後、新たな個別計画を策定する際には、総合計画との整合性が図られます。

第6次富良野市総合計画

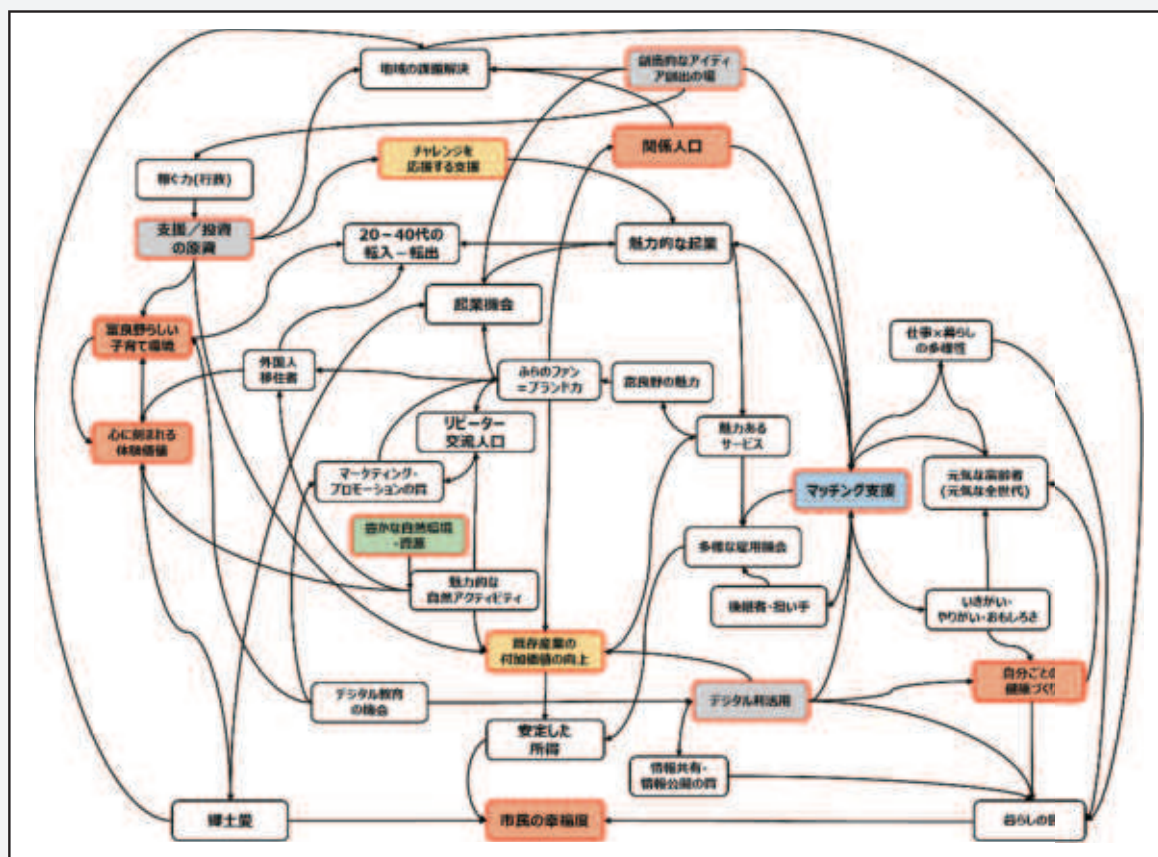
中期基本計画 重点施策



前期基本計画 重点施策「富良野市好循環モデル」

総合計画策定プロセスで出てきた素材をもとに作られた「富良野市好循環モデル」です。

好循環を生み出すために特に重要な要素が重点施策になっており、一つひとつは独立したものではありません、相互に作用し合い、つながり合っています。



この図は、因果ループ図と呼ばれるシステム思考のツールです。

複雑な課題において構造的な変化を生み出すためには、局所的に問題を分解する方法では応急処置にとどまってしまう、問題を生み出す構造に目を向けなければならないようになってきています。

問題の構造を見極めると同時に、ありたい状態（＝好循環モデル）を構造化していくために、対策を打つ場所を見極めていくために、ループ図を活用しました。要素と要素のつながりを考慮しながら問題解決を進めていく必要があります。



中期基本計画 重点施策一覧



輝く。つながり合う。
ひとの WA!

1. 市民一人ひとりが幸福を実感するまち

▼めざす状態（8年後）

「こころの豊かさ・美しさ」に焦点を当てた幸福度調査が定期的に行われ、様々な施策や取り組みが、市民の幸福度につながっている。

2. 富良野ならではの子育て環境づくり

▼めざす状態（8年後）

ライフステージごとに切れ目なく、地域全体で安心して子育てする環境があり、保護者の満足度が高い。

3. 郷土愛につながる富良野でしかできない『体験』の推進

▼めざす状態（8年後）

子どもから大人まで世代を問わず、「五感」で感じ、「心」に刻まれる富良野でしかできない「体験」をする機会がある。体験を通して、富良野を想う気持ちやアイデアがまちづくりに活かされたり、市外の方との交流が生まれたり、多様なつながりがある。市外に進学や就職したとしても、富良野を大切に想い、継続的なつながりがある。

4. いつまでも健康で自立できる心と体づくり

▼めざす状態（8年後）

市民が主体的な健康習慣を持ち、自立した生活をおくることができる。

5. 富良野につながっている人が増える仕組みづくり

▼めざす状態（8年後）

富良野に住んでいなくても地域に多様に関わっている、関わりたいと思う人（＝関係人口）が増えている。関係人口の人たちがまちづくりに実際に関わる仕組みが機能している。



想う。みがき合う。
まちの WA!

1. マッチングを通じて新たな価値を創造する

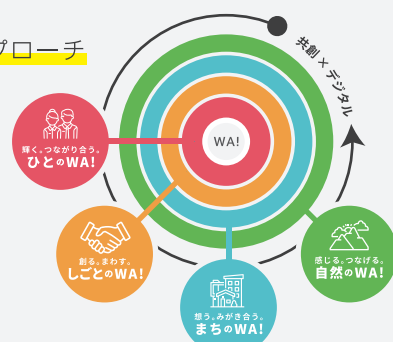
▼めざす状態（8年後）

人・情報・もの・カネ・場所などが繋ぎ合わされ（＝マッチング）、「ひと・しごと・まち・自然の WA!」が大きくなっている。マッチングにより、個人や地域の課題解決や、新たな価値が創造されている。

富良野のブランド力が高まり、価値が広く認知されている。

4つの WA!

2つの基本アプローチ



感じる。つなげる。
自然の WA!

1. 豊かな自然環境を 100 年後につなぐ

▼めざす状態（8年後）

住む人も訪れる人も、自然から豊かな恩恵を受けている。自然との共生を前提としたさまざまな取り組みに磨きがかかり、富良野から発信している。

● 共創 × デジタル

共創：アイデアが生み出されカタチになる仕組みづくり

▼めざす状態（8年後）

アイデアが生み出され、「まちづくり」や「ひとの成長」につながっていく機会が継続的にある。創造的なアイデアが生まれやすい環境があり、様々な人が集まっている。

デジタル：デジタル利活用による行政サービスの向上

▼めざす状態（8年後）

産業構造や社会経済が大きく変革する時代の転換期を乗り越えて、住民の誰もが目的に応じてデジタル化の恩恵を受け、幸せに暮らすことができる。富良野ならではのスマートシティに向けた取り組みがある。

原資：未来への原資を生み出し続ける

▼めざす状態（8年後）

多様なつながり・チカラを結集させ、未来への原資を独自に生み出し続けている。



創る。まわす。
しごとの WA!

1. 新たなチャレンジを応援する

▼めざす状態（8年後）

新たに就農や起業したいと思う人への応援が、富良野の活力につながっている。新たな挑戦をする人が集まり、増えることで、次なる挑戦者が増えていく。

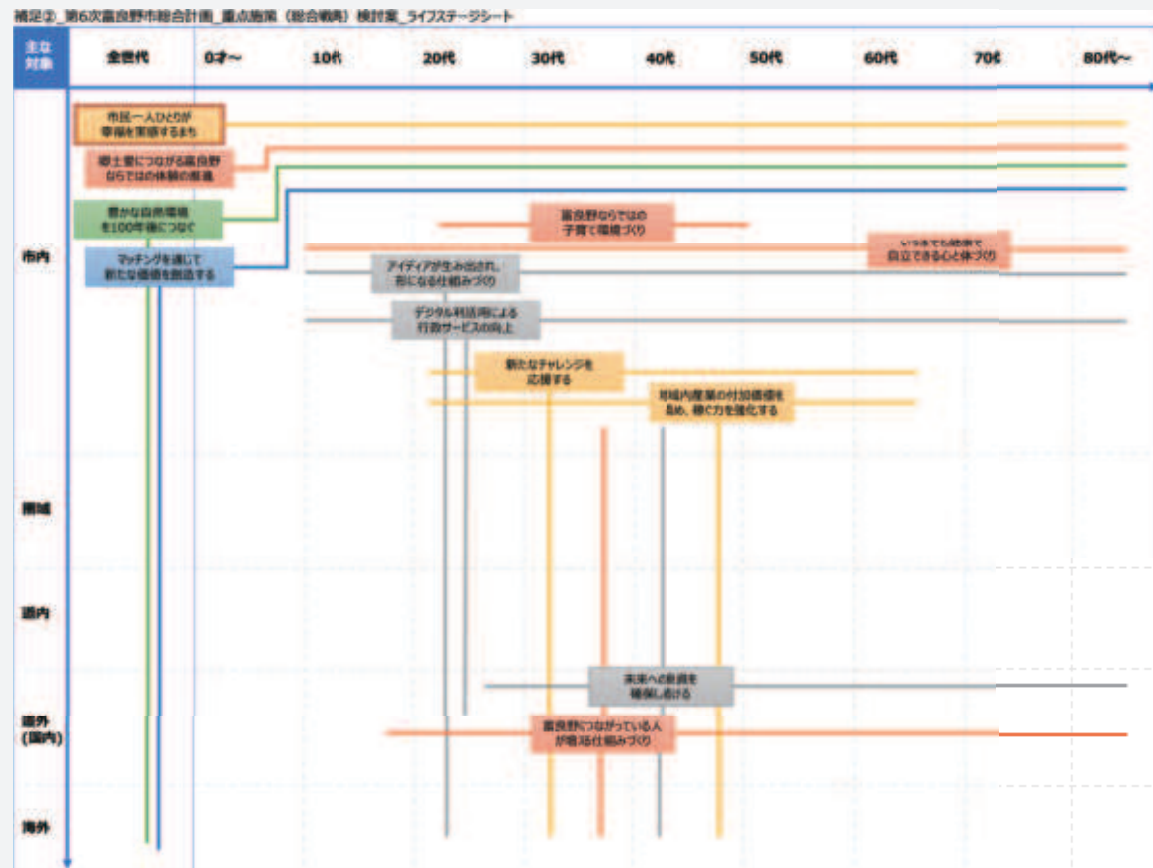
2. 地域内産業の付加価値を高め、稼ぐ力を強化する

▼めざす状態（8年後）

地域内産業（農業・観光・商工など）の付加価値が高まり、市民の所得が向上している。

前期基本計画 重点施策「ライフステージ × 対象範囲」シート

各重点施策が、主にどの世代(ライフステージ)を対象としているのか、市内外のどの範囲を対象にしているのかを表しています。



背景・課題

近年、少子高齢化、核家族化、コミュニティの希薄化、所得の不安定化など、個人の暮らしの満足度に影響を与えるとされる要因が大きく変化してきました。

これまでの地方創生などの政策においては、経済的指標が重視される傾向がありましたが、主観指標として「市民の幸福度」をおくことで、より多面的かつ本質的に検証が可能となります。

令和3年度に実施した幸福度調査においては、富良野市独自の幸福度の概念と指標体系を整理し、調査結果として、地域しあわせ風土指標の指数では、風スコアの「やってみよう」を除いて、いずれも全国平均、北海道平均を上回るスコア結果となり、幸福度の高い人たちは、幸せの要因数が高い傾向がみられました。特徴として、色々なことから「幸せ」を見つけられる「幸せの感度の高い人（幸せを感じる要因数の平均値が5以上）」に、幸福度が高い傾向がみられたことなど、本市の特徴について一定の把握ができました。また、主観的幸福度の設問においては「言われてみればそうだ」という回答が31.9%と一定の結果があったことから、本調査により、市民が改めて幸せを感じるきっかけになったと言えます。

さらに、市民、高校生から822個の「幸せのタネ」が寄せられ、幸せのタネを効果的・継続的に市民等と共有していくことが、市民の「幸せの感度」を高め、幸福度を高めることにつながると推測されます。

幸福度調査の結果は、富良野市の魅力や強みがあらわれていることから、各種施策の推進を図っていくために効果的な活用を進めていくとともに、客観的な効果測定の方法として幸福度調査との関係性の高い「Well-Being」の指標の導入・連動について検討していく必要があります。

※Well-Being 指標とは：客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-Being)」を数値化・可視化したものです。(参照：LWC 指標)

▼幸せのタネについて

幸福度調査の実施にあたり、あなたが幸せを感じる瞬間や、あなたにとって重要だと思うこと「幸せのタネ」について、記載いただきました。

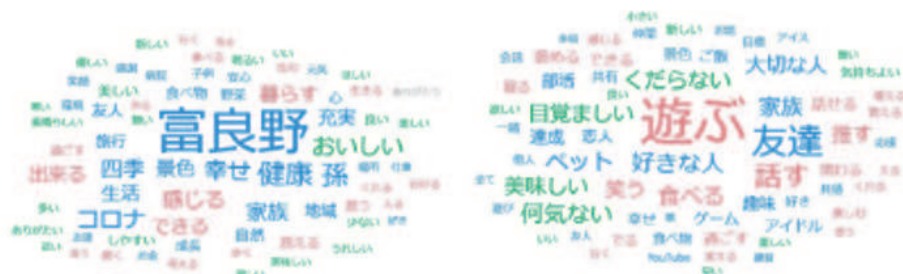


図3「幸せのタネ」のワードクラウド 一般市民（左）と高校生（右）

※ワードクラウドはいずれもユーザーローカル テキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）を使用



めざす状態[8年後]

「こころの豊かさ・美しさ」に焦点を当てた幸福度調査が定期的に行われ、様々な施策や取り組みが、市民の幸福度につながっている。

主な施策[R5~R8年]

- ▶ 市民の幸福度を定期的に測定し、施策の見直しなどに活用できる仕組みをつくり出す。
 - 幸福度調査の実施と結果の分析
 - 集まった幸せのタネを広く周知

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
幸福度調査	客観的な効果測定の仕組みがない	R5「Well-Being」指標の導入	定期的な調査の実施

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

重点ひと②

輝く。つながり合う。
ひとの WA !

富良野ならではの子育て環境づくり

主担当部署 こども未来課・虹いろ保育所・保健医療課・都市施設課

背景・課題

人口減少・少子高齢化に伴い、子ども人口(18歳未満)は近年減少傾向にあり、乳幼児期・小中高校期のどの年齢層においても減少傾向にあります。

出生数の推移は、年によりバラつきがありますが長期的にみると減少傾向が続いており、合計特殊出生率も 1.2 から 1.6 の間で推移しています。合計特殊出生率が維持されても、子育て世代の女性人口が減少すると出生数は少なくなります。

世帯数と平均世帯人員数の推移をみると、世帯数は 10,500 世帯前後で横ばいとなっていますが、人口減少が続いているため、平均世帯人員は減少傾向にあり、核家族化の流れが続いています。

女性の労働力率をみると、全体的に上昇傾向がみられ、女性の就労が進んだことがうかがえます。一方で、30 代女性で労働力率の低下する「M 字カーブ」現象が続いており、共働き世帯の増加に伴う分業意識の改善や多忙な子育て世代を支えるための子育て支援サービスの確保を、量と質の両面から進めていく必要があります。

令和 2 年 2 月に策定した第 2 期子ども・子育て支援事業計画の策定にあたって実施したアンケート調査の結果からみた子育ての特徴は、「孤育て」の高まり、共働き世帯の増加による教育・保育ニーズの高まり、地域における保護者同士・専門職とのつながりの不足、放課後子ども教室・学童保育のニーズの高まり、子どもの遊び場不足、地域医療(産婦人科・小児科)の充実、仕事と子育ての両立があげられており、第 6 次富良野市総合計画前期基本計画期間中において、室内のこどものあそび場として複合庁舎内に「へそキッズランド」を開設、また、子ども医療費助成制度では高校生までの医療費の無償化を図り、子育て世代の経済的負担軽減を進めてまいりました。中期基本計画期間中においても、引き続き、子育て環境の改善を進めていく必要があります。

DATA

▼子ども子育て計画策定の保護者ニーズ調査 (H30)

① 子育て環境や支援への満足度 (就学前児童保護者)

%	満足度5	満足度4	満足度3	満足度2	満足度1	無回答	n
全体	2.4%	14.1%	38.5%	32.6%	10.6%	14.1%	340

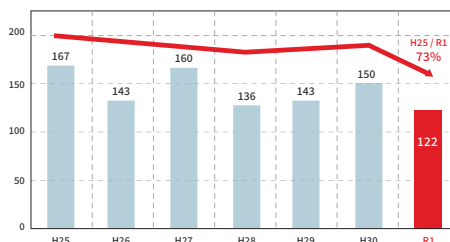
② 子育て環境や支援への満足度 (就学児童保護者)

%	たいへん満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	たいへん不満	無回答	n
全体	1.8%	15.9%	39.5%	31.0%	11.1%	0.8%	397

▼世帯数と平均世帯人員数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	H25 / R1
世帯数	11,050	11,053	10,997	11,010	11,018	11,920	10,723	← 99%
人口	23,609	23,345	22,975	22,656	22,355	21,952	21,230	← 90%
うち 子供数	3,657	3,587	3,451	3,328	3,180	3,059	2,809	← 77%
平均世帯人員	2.14	2.11	2.09	2.06	2.03	2.01	1.98	← 92%

▼出生数の推移



単位：人



めざす状態[8年後]

ライフステージごとに切れ目なく、地域全体で安心して子育てする環境があり、保護者の満足度が高く、子どもが生き生きと育っている。

主な施策[R5~R8年]

- ▶子育てに対する体制および支援を強化します。
 - デジタルを活用した子育て支援の見える化
 - 待機児童の解消
 - 子育て世代の負担軽減
 - 高校生までの医療費無償化の継続
 - こども家庭センターの設置
 - ワークライフバランスの機運づくり
 - 多世代同居などの促進
 - 各種奨学金制度による家庭等への負担軽減
- ▶こどもや子育て世代の居場所づくりを進めます。
 - 屋内外の遊び場の確保
 - 公園遊具の更新
 - 多世代が利用・交流する場の設置
 - ヘソキッズランドの運営
- ▶産婦人科 / 小児科医療の充実を図ります。
 - 産婦人科、小児科医療体制の継続
 - 産前、産後ケアの体制づくり

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
子育て環境や支援への満足度 ※富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画	H30:16.5%	R6:80%	R12:80%
保育所待機児童数	R3末:7人	0人	0人
通園センター待機児童数	R3:0人	0人	0人
産婦人科／小児科医療機関数	R3: 産婦人科:1カ所 小児科:1カ所	産婦人科:1カ所 小児科:1カ所	産婦人科:1カ所 小児科:1カ所

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

主担当部署 教育振興課・生涯学習センター・商工観光課

背景・課題

価値観や選択肢が多様になり、進学や就職を機に、富良野で育った子供たちの市外への転出が増加しています。例え富良野から一度離れたとしても、富良野を想い、何らかの形でつながり続けたり（関係人口）、いつかは戻ってこようと思う人（Uターン）が多くいることが大切です。

社会情勢の変化もあり、家庭や地域での教育力の低下が指摘され、子育てに係る意識も希薄化してきています。さらには、大人自身が富良野で体験できることを体験したことがなかったり、把握できていないことも子どもの郷土愛に影響を与えている可能性もあります。子どもだけでなく大人も実際に富良野を「体験」し、魅力を発見し、互いに共有できるような機会が求められています。

現在、富良野市では全小中学校で、学校や地域の特性を生かした特色ある教育課程を進めるとともに、英語力向上のための外国語指導助手を派遣、演劇手法を用いたコミュニケーションプログラムを実施、森林学習プログラムや環境教育など地域資源を活かした環境教育を進めています。

富良野には国内外から多くの人々が何度も訪れる魅力が多くあります。豊かな自然だけでなく、「北海へそ祭り」の伝統行事や文化、歴史など市民にとってあたりまえに感じるものが実はあたりまえでないことに気づけたり、五感や心に刻まれるような忘れられない体験をすることで富良野の魅力を再発見できるようになり、そうした体験が郷土愛にもつながっていきます。

市民一人ひとりが富良野でしか味わえない自然や文化、まちづくりなどの体験を行うことができるか、それらの体験を価値に変えていく機会になっているか、改めて確認していく必要があります。

また、様々な事業やイベント、研修やプログラムなどが個別に発信されており、富良野で体験できる「コト」が体系化されていないことも、改善していく必要があります。

DATA

▼学校教育におけるプログラム参加校

プログラム	実績 (R1)
コミュニケーション教育推進参加校	13 校／ 13 校
森林学習プログラム参加校	8 校／ 13 校
環境教育プログラム参加校	9 校／ 9 校



めざす状態[8年後]

子どもから大人まで世代を問わず、「五感」で感じ、「心」に刻まれる富良野でしかできない「体験」をする機会がある。

体験を通して、富良野を想う気持ちやアイデアがまちづくりに活かされたり、交流が生まれたり、多様なつながりがある。※重点基本①(共創)

富良野を離れたとしても、富良野を大切に想い、継続的なつながりがある。

※重点ひと⑤・重点まち①

主な施策[R5~R8年]

- ▶ 世代を問わず富良野で体験できる機会を体系化します。
 - 学校教育課程における活動と社会教育における体験活動の整理と見える化
 - ライフステージや目的に応じた学びの機会及び体験プログラムの整理と見える化
- ▶ 体験プログラム・イベントの参加を促進します。
 - 体験プログラム・イベントの見直しと開発
 - 体験プログラム・イベントに参加する市民が増える仕組みづくり
 - 体験を通じた富良野の魅力再発見とプロモーション

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
富良野で体験できるプログラム・イベントの体系化	体系化されていない	～R5 体系化の整理	

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況
予算策定後記載予定		

主担当部署 保健医療課・高齢者福祉課・教育振興課

背景・課題

高齢化社会を見据え、平均寿命と健康寿命の差を短縮することが望まれており、健康寿命の延伸のためには健康状態を改善する必要があります。その中でも循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病の発症予防には、適正体重を維持することが重要となります。

富良野市の国保特定健診受診者のメタボリックシンドローム該当者割合を見ると、男女とも減少傾向ではありますが、肥満は個人の食習慣、運動不足などの生活スタイルが大きく関与しています。

また、富良野市の小学生の肥満傾向児の割合を見ると、全道・全国より非常に高く、若い年齢での生活習慣病の発症につながるものが危惧されます。子供に影響を与える大人の生活習慣と健康意識が課題となっています。

超高齢化と言われる時代において、いつまでも元気に自立して生活を楽しむことはとても大切であり、そのためには健康習慣を早くから身に付けていくことが必要となります。

富良野市の介護認定率は年々上昇傾向にあります。若いうちから健康習慣を身に着けた市民が増えることで、元気な高齢者が増え、長期的にみると認定率の上昇が抑えられることにつながります。

健康づくりは住民が行政に依存せずに、自分たちの役割を自覚し行動する過程を重視していくということも大切ですが、健康は個人の努力のみで実現できるものではなく、社会環境の整備や資源の開発が必要とされています。

これまでの健康増進や介護予防の取り組みに加え、個人にインセンティブ（動機づけ）を提供する「ふらの健幸ポイント事業」により幅広い年齢層を取り込み、健康維持及び健康寿命延伸に向け市民一人ひとりが自身の健康に関心を持ち、主体的に健康づくりに取り組むための環境整備が必要です。

DATA

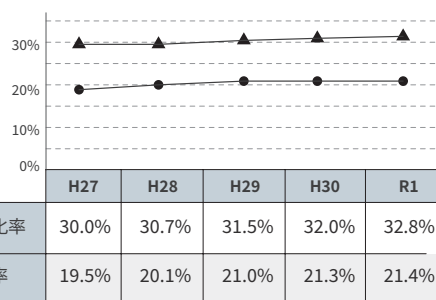
▼国保特定健診メタボの割合

		H28	H29	H30	R1
男	富良野市	29.5%	29.1%	29.0%	28.8%
	全道	27.8%	28.7%	29.4%	30.2%
	全国	27.5%	28.4%	29.2%	29.9%
女	富良野市	9.6%	10.3%	10.1%	8.8%
	全道	9.0%	9.5%	9.7%	10.1%
	全国	9.5%	9.8%	10.0%	10.4%

▼肥満傾向にある子ども（小5）の割合

	H28	H29	H30	R1
富良野市	11.10%	12.71%	12.72%	19.02%
全道	12.22%	11.88%	11.33%	14.35%
全国	8.96%	8.89%	9.00%	9.57%

▼介護認定率





めざす状態[8年後]

市民が主体的な健康習慣を持ち、自立した生活をおくることができる。

主な施策[R5~R8年]

- ▶ 自らの健康に関心を持ち、自発的な健康習慣につながる環境づくりを推進します。
- 自発的な健康習慣づくりの仕組みの強化
 - ICTを活用した自分の健康状態や健康習慣の見える化

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
平均自立期間 (介護認定で要介護2以上になるまでの期間の平均) ※国保データベースシステム	H29～R1 平均 男性：79.9歳 女性：83.9歳	H30～R2 平均 男性：79.9歳 女性：84.2歳	R8～10 平均 男性：80.7歳 女性：85.0歳
ふらの健幸ポイント事業参加者数	R3 253人	800人	1,000人

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

重点ひと⑤

輝く。つながり合う。
ひとの WA !

富良野につながっている人が
増える仕組みづくり

主担当部署 企画振興課・商工観光課・総務課

背景・課題

生産年齢人口の減少により、労働力やまちづくりを担う人材の不足という課題に直面しています。人口を増加することが難しい中、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域と関わりを持つことが期待されています。

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。

富良野圏域は、国内有数の観光地であり、地名が持つブランド力があります。「関係人口」の創出に向けては、令和3年度からワーケーションの受入実証やふるさと納税の推進に取り組み、ワーケーション実証者との関係性構築、ふるさと納税による寄付者数・寄付額の増加に繋がっています。今後は「関係人口」創出から本市の地域課題の解決や、企業進出やローカルベンチャー、移住に繋げる取り組みが必要となります。

富良野と関わりを持つ人や関わりを持ちたい人が、人口減少化における地域課題の解決手法の可能性が広がります。(重点まち①と連動)

DATA

▼全国魅力度ランキングの推移・人口あたり観光入込客数ランキング (R1)

ランキング 入込客数 / 人口	ランキング 魅力度	市町村	人口	観光入込客数	人口1人あたり 観光入込客数
1	13	箱根町	11,223	21,260,000	1,894.30
2	15	軽井沢町	19,065	8,717,000	457.2
3	12	熱海市	37,002	6,976,143	188.5
4	11	日光市	81,711	12,316,263	150.7
5	7	鎌倉市	172,254	19,870,000	115.4
6	9	富良野市	21,893	1,919,094	87.7
7	4	小樽市	116,292	7,814,200	67.2
8	3	京都市	1,468,525	52,750,000	35.9
9	14	石垣市	49,590	1,369,412	27.6
10	16	那覇市	321,094	8,704,727	27.1
11	19	屋久島町	12,271	295,972	24.1
12	5	神戸市	1,526,639	35,380,000	23.2
13	1	函館市	256,772	5,261,000	20.5
14	10	仙台市	1,089,131	21,817,554	20
15	8	金沢市	453,654	9,031,509	19.9
16	20	長崎市	421,384	7,055,400	16.7
17	17	旭川市	335,323	5,270,500	15.7
18	18	別府市	117,799	1,313,177	11.1
19	6	横浜市	3,740,944	34,200,000	9.1
20	2	札幌市	1,966,735	15,846,000	8.1

地域ブランド研究所 全国市区町村魅力度ランキング	
R2	第9位
R1	第9位
H30	第7位

▼ふるさと納税額・件数・道内順位の推移 ※重点原資①

団体名		H29		H30		R1		ふるさと納税ランキング (R1)			人口	人口1人あたり		人口 1人あたり ランキング
		金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	H29 (額)	H30 (額)	R1 (額)		円/人	件数/人	
北海道	富良野市	68,216	4,019	48,702	2,885	61,510	3,324	87	113	108	21,235	2,897	0.2	143



めざす状態[8年後]

富良野と多様に関わっている、関わりたいと思う人(＝関係人口)が増えている。
関係人口の人たちがまちづくりや地域課題の解決に実際に実際に関われる仕組みが機能している。

主な施策[R5～R8年]

- ▶ 関係人口創出から価値向上の取組。
 - ふるさと納税寄付者と関係性構築の検討
 - 企業向けワーケーションプログラムの構築
 - 地域課題解決と関係人口をつなげる仕組みづくり ※重点まち①
- ▶ 関係人口のプロモーションを推進します。
 - 各種分析データの利活用をもとにした「つながり」を促進するプロモーションの実施

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
関係人口創出からの価値向上	R3 ワーケーション受入実証	民間企業やDMOによる ワーケーション受入 ビジネス創出	ワーケーション実証企業等のサテ ライトオフィス進出、ローカルベン チャーや社員等の転職なき移住
ふるさと納税寄付者数	R3：24,183件	50,000件 ふるさと納税寄付額8億円÷寄付額 1.6万円/人※重点原資①	62,500件 ふるさと納税寄付額10億円÷寄付 額1.6万円/人※重点原資①

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

主担当部署 農林課・商工観光課

背景・課題

農村人口の減少や高齢化による農村機能の低下や農業担い手不足を解消するため、富良野市内の農業関係団体が集結し、富良野市農業担い手育成機構を平成 28 年 2 月に設立しました。機構では、新規就農を希望する人に対し、円滑な就農や就農後の早期経営安定の促進のため、関係機関と連携し支援を行っています。

認定農業者戸数は、離農者数が新規就農者数を上回っている状況にあり、農家戸数全体を含め減少しています。農家戸数が減少することで、1 戸当たりの作付耕地面積は増加しています。

近年、富良野市における新規出店の総数は減少傾向にあります。市街地等の空店舗を活用した出店も見られるところです。

創業支援は、富良野商工会議所や山部商工会と連携し、円滑な事業開始の支援を実施していますが、移住者が創業を希望する事例も増えており、資金面のみならず住宅などの生活基盤も含めた対応が必要となります。

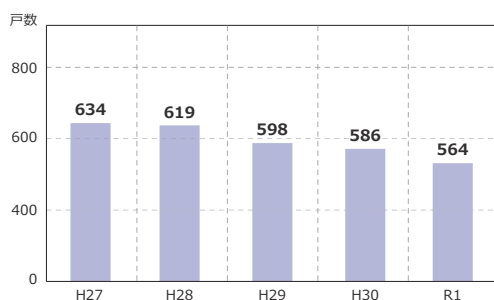
地域経済を支える農業や商工業、観光業において、次世代を担う人材の確保は重要であり、受け入れる側として新たなチャレンジを応援する環境整備が必要となっています。

DATA

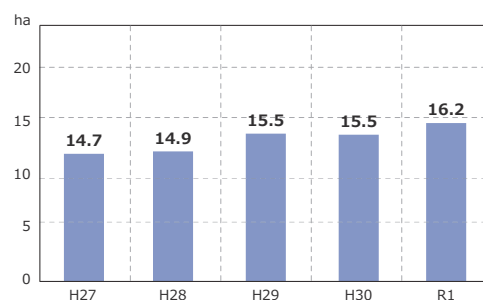
▼認定農業者の状況調べ（富良野市経済部農林課）

	H26 年度末	H27 年度末	H28 年度末	H29 年度末	H30 年度末	R1 年度末
農家戸数	652	634	619	598	586	564
認定農業者数	93.5	95.8	96.9	90.9	92.1	94.5

▼農家戸数の推移



▼一戸当たりの作付耕地面積の推移



▼新規出店件数の推移

	H27	H28	H29	H30	R1
新規出店件数	14	11	6	5	3



めざす状態[8年後]

新たに就農や起業したいと思う人への応援が、富良野の活力につながっている。
新たな挑戦をする人が集まり、増えることで、次なる挑戦者が増えていく。

主な施策[R5~R8年]

- ▶ 新たな挑戦者(就農・起業)の受け入れ体制を強化します。
 - 農村を維持するための新規就農システムの見直し ※重点自然①
 - 魅力的なアイデアの事業化を応援する仕組みづくり
 - 空家・空店舗の活用、マッチングの推進 ※重点まち①
- ▶ 潜在的な就農・起業希望者へのプロモーションを推進します。※重点まち①
 - チャレンジを促進するプロモーションの実施

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
新規就農者数 (農家子弟、新規参入、雇用就農の合計)	R3 12人/年	8人/年	8件/年
創業者向け支援制度活用件数	R3 8件/年	12件/年	15件/年

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況
予算策定後記載予定		

主担当部署 農林課・商工観光課

背景・課題

地域経済分析システム (RESAS：リーサス) を活用し、環境省で作成した地域経済循環分析によると、富良野市において、全産業の労働生産性を見ると全国、北海道、人口同規模地域のいずれと比較しても低く、産業別には、人口同規模地域と比較すると第1次産業では高い水準ですが、第2次産業と第3次産業では低い水準となっています。

また、富良野市の夜間人口1人当たりの雇用者所得は、全国、北海道、人口同規模地域のいずれと比較しても低い水準ですが、雇用者所得とその他所得の比較では、その他所得は全国と比較すると高く、雇用者所得は全国と比較すると低い水準となっています。

平成30年度に実施した富良野市観光経済調査では、年間観光消費総額は274億円、観光経済波及効果は465億円と推計され、年間観光消費総額に対して、1.7倍の乗数効果をもたらすと算出されました。

一人あたり観光消費額は、夏季の市内宿泊客は26,670円と前回調査並となっており、夏季の日帰り客は7,340円で物品購入費は前回を上回りましたが、交通費や飲食費が減少しており、合計では前回調査をやや下回っています。

冬季においては39,933円と前回調査を大きく上回り、市内宿泊費や入場料 (入湯料、スキーリフト代など) が増えており、市内宿泊費が増えているのは、平均宿泊日数、1泊あたりの宿泊費がともに前回調査を上回っていることによります。冬季日帰り客は8,997円で概ね前回調査並となっています。

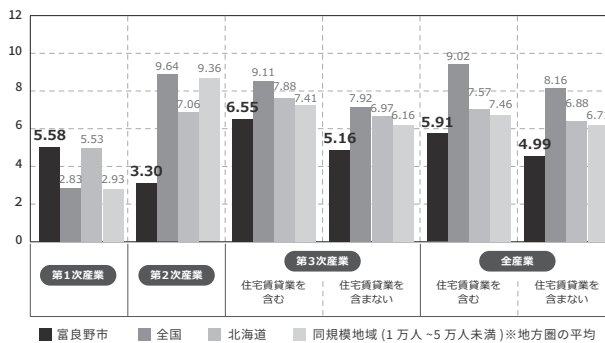
各地域の通信インフラの整備が進むとともに、国の通信環境整備モデル地区を活用や、関係機関による自動走行の実証実験を行うなど、さまざまな技術を活用した「スマート農業」を更に進め、農作業の省力化・効率化を進める必要があります。

富良野市ではメイドインフラノ認証制度により、地元農産物を加工した新たな特産品開発を推奨していますが、認証制度の周知、認証後のフォローアップや認証を目指す事業者の育成など効果的なブランド力の発信が課題となっています。

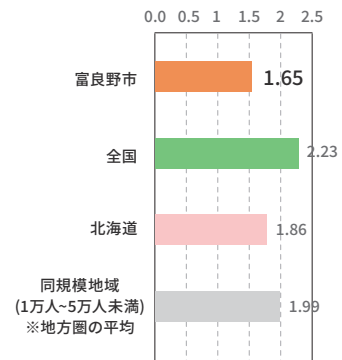
農業と観光を基幹産業を中心に魅力を再構築し、産業間の連携した稼ぐ力の創出が必要となります。

DATA

▼従業員1人当たり付加価値額 (労働生産性) ※RESAS



▼夜間人口1人当たり雇用者所得 ※RESAS



▼観光経済波及効果の推計

項目	H30 調査	H25 調査
①年間観光総消費額	274 億円	240 億円
②観光関連産業の所得による効果	50 億円	48 億円
③観光関連産業の原材料調達による効果	123 億円	117 億円
④全産業の所得による効果	18 億円	24 億円
合計	465 億円	429 億円
乗数効果 (合計 / ①年間観光総消費額)	1.70	1.79

▼スマート農業技術導入のための補助事業活用件数

スマート農業技術導入のための補助事業活用件数 (農林課)				
	H29	H30	R1	累計
導入件数 (補助事業活用数)	16 件	11 件	14 件	41 件



めざす状態[8年後]

地域内産業(農業・観光・商工など)の付加価値が高まり、市民の所得が向上している。

主な施策[R5~R8年]

- ▶ 地域内産業の魅力の再構築により付加価値の強化、所得の向上を行います。
 - 産業間・産業内連携による稼ぐ力の強化と地域経済循環の向上
 - デジタル利活用による生産性向上の支援 ※重点基本②(デジタル)
 - 地域特産品の開発によるブランド力強化
 - 季節就業者の通年雇用促進による所得の安定
- ▶ 付加価値を高めるためのプロモーションを推進します。※重点まち①
 - 付加価値を高めるプロモーションの実施

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
スマート農業導入戸数 ※第3次富良野市農業及び農村基本計画	R3: 56件	100件	120件
メイドインフラノ認定商品数 メイドインフラノ認定事業者数	R3: 61商品/13事業者	70商品 16事業者	100商品 20事業者
観光消費単価 ※FURANO VISION2030	R3 30,029円/人	68,000円/人	80,000円/人
地域経済循環率 ※RESAS	H30 84.5%	87.0%	90.0%
雇用者所得 ※RESAS	H30: 168万円 (同規模・地方圏平均 174万円)	174万円	180万円

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

背景・課題

これまでは個人のつながりにより、人・情報・もの・カネ・場所などのマッチングが行われてきましたが、ニーズの多様化、社会の複雑化に伴い、マッチングが困難になってきています。

人口減少化においては、市内でのマッチングだけでなく、関係人口など市外とのつながりも不可欠であり、多様かつ細分化されたニーズに応じてマッチングを促進させる仕組みが求められますが、既存の仕組みでは対応できる範囲が限定的であり、充分ではありません。

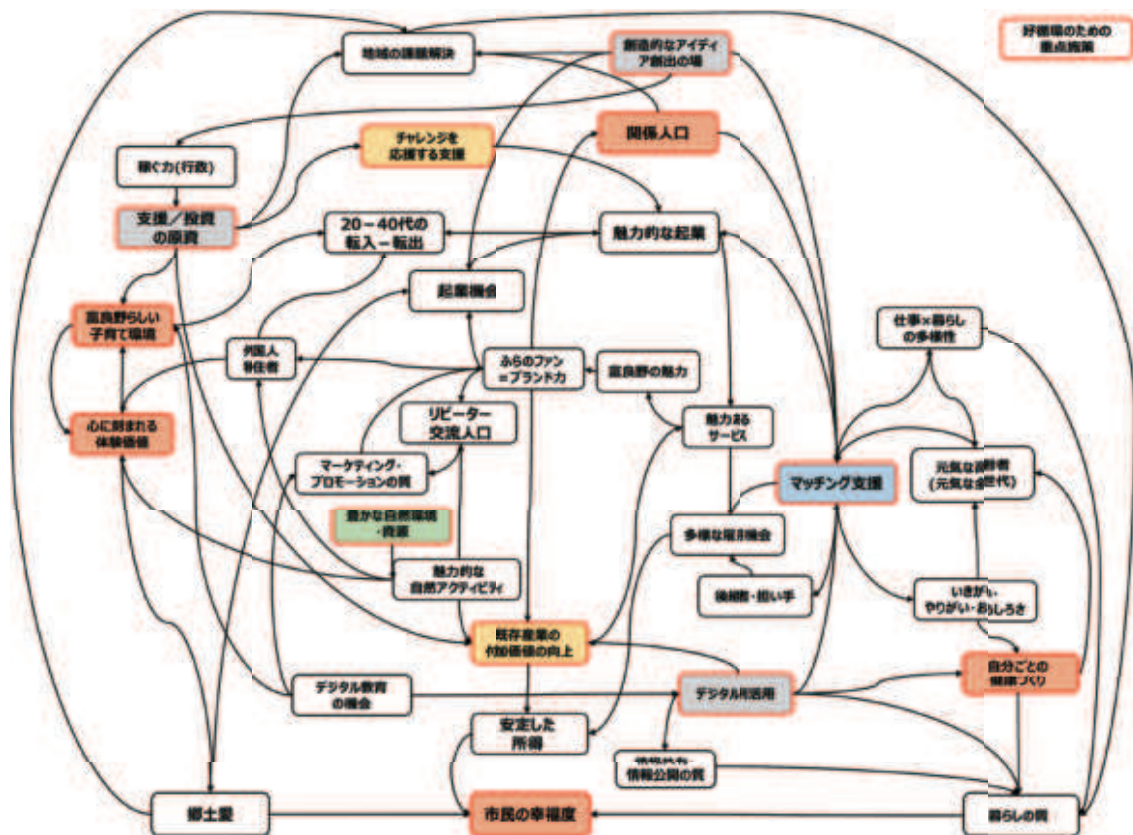
また、広義に捉えると、観光客(交流人口)も「行きたい／来てほしい」という双方のニーズが合った形で初めて訪れてくれる意味では、マッチングとなります。

交流人口と関係人口の増加に向けては、富良野市のブランディングやプロモーションも欠かせず、戦略的かつ統合的なプロモーションによって、さらなるブランド力の向上を図っていく必要があります。

シティプロモーション戦略の構築に向けて、庁内検討プロジェクトチームを発足し、庁内推進委員会、有識者会議において、「誇りをもう一度、磨き直す」ことをテーマに、「農」「スノー」を先行重点分野として取組を進めることを確認しています。

マッチングの仕組みについては、シティプロモーション戦略及び関係人口の創出の取組と連動するなかで検討を進めます。

DATA





めざす状態〔8年後〕

人・情報・もの・カネ・場所などが繋ぎ合わされ(=マッチング)、「ひと・しごと・まち・自然のWA!」が大きくなっている。
マッチングにより、個人や地域の課題解決や、新たな価値が創造されている。
富良野のブランド力が高まり、価値が広く認知されている。

主な施策〔R5～R8年〕

- ▶ 人・情報・もの・カネ・場所などをつなげるための新たなマッチングシステムを構築します。
 - 市内向けのマッチングの仕組みの構築
 - 関係人口など市外向けのマッチングの仕組みの推進
- ▶ ブランド力向上のための戦略的なシティプロモーションを行います。
 - 個別領域と富良野全体のプロモーションの集約、強化
 - 地域内ブランドの向上と広域プロモーションの促進
 - 富良野ファン創出交流会の実施

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
マッチングの仕組み構築 (市内向け)	進行中	R5 方向性の確立	
関係人口向けマッチングイベント数	1件	1件(継続)	1件(継続)
シティプロモーション戦略の構築実施	進行中	R5 戦略の推進	

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況
予算策定後記載予定		

背景・課題

複数の山系に囲まれ、豊かな水系、農地が織りなす美しい景色が富良野市の魅力で、住む人も訪れる人も、その豊かな恩恵を受けています。

農家戸数が減少すると、不作付地が増え、農村景観が崩れる可能性があり、農業以外の産業や暮らしへの影響が危惧されます。

富良野市の総面積は 60,071ha であり、そのうち森林面積は 43,012ha で総面積の 72% を占めています。齢級別では、人工林のうち 12 齢級(60 年生)以下の林分が 5,657ha で 86% を占めている一方、3 齢級以下の人工林は 348ha で 5% と齢級構成に偏りが生じていることから、間伐と同時に人工造林を適正に実施し齢級構成を平準化していくことが重要な課題となっています。

一方で、市民が 14 種別のごみ分別を実施し、ごみの再資源化処理率は約 90% を誇り、自然との共生を前提とした取り組みがすでにあります。

富良野市全体の CO2 排出量推移は、LED やペレットストーブなどの省エネ・再エネ機器の普及により、緩やかな減少傾向にあります。2050 年ゼロカーボンシティ実現には、市民一人ひとりの行動変容を促す啓発等の取組や、更なる再生可能エネルギーの導入が必要です。

富良野らしい自然を維持するための動きとして、登山道の整備、鳥沼公園の外来種駆除、各種団体による植樹活動などがあげられます。

今後の人口減少において、高齢化や担い手不足が懸念される中、美しい自然や景観を維持し、後世につなげていくためには、一人ひとりが小さな変化に気づき、改善につなげる動きを意識していく必要があります。

DATA

▼富良野市全体の CO2 排出量推移（最新の統計値より）

H24	H25	H26	H27	H28	H29
207 千 t	212 千 t	207 千 t	197 千 t	201 千 t	199 千 t



めざす状態[8年後]

住む人も訪れる人も、自然から豊かな恩恵を受けている。
自然との共生を前提としたさまざまな取り組みに磨きがかかり、富良野から発信している。

主な施策[R5~R8年]

- ▶美しい自然や景観の小さな変化に気づき、改善につなげる仕組みを構築します。
 - 自然の変化を共有する仕組みの構築
 - 自然教育の推進 ※重点ひと③
- ▶農村景観を維持します。
 - 多様な担い手の確保による農村地域の維持
 - 農村地域の持続に必要な多様な主体との連携の推進
- ▶森林保全を推進します。
 - 計画的な森林整備による森林齢級の適正化
- ▶地球温暖化の抑制に貢献します。
 - 代替再生可能エネルギー導入や市民への啓発活動の推進
 - ごみ減量と再資源化の啓発
 - エネルギーやごみリサイクル分野におけるローカル SDGs(地域循環共生圏※資源の地域循環)の推進
 - 脱炭素・ゼロカーボンにおけるロードマップ(取組方針)の推進

重要業績評価指標(KPI)

KPI 項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
自然の変化を共有する仕組みの構築	環境白書の公表	市民セミナーの実施	
農作物作付面積	R3: 9,106ha ※富良野農業の概要(JAふらの調べ)	9,000ha 以上を維持	9,000ha 以上を維持
造林面積	R3 民有林 38 ha / 年 市有林 1.2 ha / 年	民有林 35 ha / 年 市有林 1.5 ha / 年	民有林 35 ha / 年 市有林 1.5 ha / 年
富良野市全体 CO2 排出量	H29 199 千 t/CO2	189 千 t/CO2	147 千 t/CO2

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

重点基本①

2つの基本アプローチ 「共創」

アイデアが生み出され カタチになる仕組みづくり

主担当部署 企画振興課

背景・課題

正解が一つではなく、変化のスピードが速い、やってみなければわからないことが多い時代、これまでとは違った新たな価値創造が求められています。

課題が明確なケースでは「協働」のアプローチが有効で、複雑な課題が多い状況においては「共創」のアプローチが有効であるといわれており、多様な立場の人たちが対話を重ね、新しい価値を「共」に「創」り上げていくことが必要となってきました。

富良野市ではこれまで、平成17年に「富良野市情報共有と市民参加のルール条例」を制定し、パブリックコメント手続、地域懇談会などの意見交換の機会や市民意識調査など市民の声を施策などに反映させる協働のまちづくりを推進してきました。

令和元年度は、より発展した協働の形として、総合計画策定を目的に「市民協働ワークショップ」を2回実施し、令和2年度も同様に「まちづくり共創ワークショップ」を1回実施しました。

令和3年度から、共創のまちづくりを進めるため、庁内プロジェクトチームを設置し、「太陽の里」「原資」をテーマに共創の取組の方向性を議論するなかで、市民等とのワークショップ等を実施してきました

太陽の里プロジェクトでは、ワークショップで出されたアイデアの具体的なアクションとして、ワークショップ参加者や地域NPOとの協働によるゴミ箱の改善を実施しています。

共創の取り組みについて、庁内及び市民へわかりやすく広げていくことが課題となります。

DATA

▼R1年度第1回100人ワークショップ参加者アンケート（上位のみ）

No.	これからの富良野に必要なこと	人数
1	市民全員で富良野について考え共創していく意識、話し合いの機会。意見の取り方の多様化	18
2	富良野にしかできない取り組み・富良野の特徴を活かしたもの	10
3	市民や様々な人が集える交流の場所。つながり	8
4	自然、環境、いなかささ	7
5	子供の環境、子育ての支援	6
6	人口減少への対策。人口減を受け入れてから話をする、行動する	6
7	行政、市民の一体となった動き。ビジョンの共有	5
No.	印象に残ったこと	人数
1	様々な年代、業種、出身地の人が集まる多様な視点と意見が集まる場	21
2	WS 続けていってほしい。すばらしい場。繰り返すこと。話し合いの重要性。また参加したい。	17
3	富良野に想いのある人が多い。フラノ愛。たくさんのアイデアが出ていた。	14
4	楽しかった。面白かった。話しやすかった。安心して参加できた。	13
5	勉強になった。視野が広がった。良い経験になった。新しい発見が多かった。	11
6	富良野には魅力や良いところ、人材がたくさんある。活用しきれていないことがまだある	7



めざす状態[8年後]

アイデアが生み出され、「まちづくり」や「ひとの成長」につながっていく機会が継続的にある。
創造的なアイデアが生まれやすい環境があり、様々な人が集まっている。

主な施策[R5~R8年]

- ▶「共創の場」の仕組みをつくります。
 - 共創を促進する環境づくり
 - 共創されたまちづくりのアイデアを形にする仕組みの推進
 - 共創のまちづくりを推進する人材の育成

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
テーマ別ワークショップ開催数	R元年度：2回 R2年度：1回	毎年 2回以上	毎年 2回以上
共創の機会から具現化したプロジェクト数	0件	毎年 1件以上	毎年 1件以上
まちづくり人材育成講座	0件	毎年 2回以上	毎年 2回以上

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況
予算策定後記載予定		

背景・課題

ICT(情報通信技術)は、私たちの想像を超えるスピードで進展しています。端末やセンサー類の小型軽量化・低廉化と、それに伴うデータ流通量の飛躍的な増大は、「モノのインターネット (IoT=Internet of Things)」、「人工知能 (AI=Artificial Intelligence)」、「ビッグデータ」の活用につながり、社会にこれまで以上の変革をもたらすといわれています。

一方で、人口減少・少子高齢化は進行し、年少人口の減少による子育てや教育環境の変化、生産年齢人口の減少による担い手や労働力不足、高齢者人口の増加による医療・介護・住まい・公共交通・生活支援などが課題となっています。

そのような中、IoT、AI、ビッグデータなどは、地域の住民・行政・企業のデータ利活用による住民サービスの充実、地域における新たなビジネス・雇用の創出などのメリットを実現し、地域の課題解決を図るための効率的・効果的なツールとして期待されています。

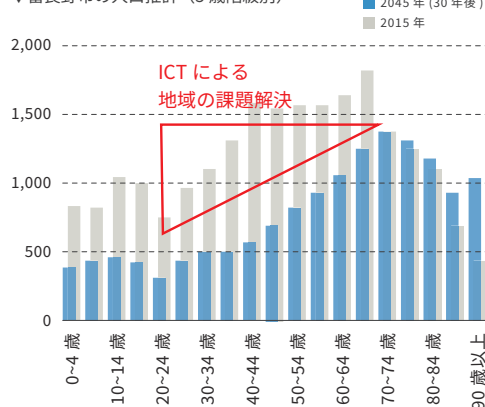
しかし、富良野市の良さをなくさないよう、アナログ的なことの大切さも見極めながら、目的に応じてデジタルを利活用していく必要があります。

DATA

▼Society5.0 イメージ (内閣府 HP より)



▼富良野市の人口推計 (5 歳階級別)



※LWC 指標：(Liveable Well-Being City 指標) とは、令和4年7月にデジタル庁から示された客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を指標で数値化・可視化したもの。

※IoT 除排雪：除排雪の効率化を図るため、GPS 付のスマートフォンを除雪車両に搭載

※コドモン：登園管理、指導案の作成、保護者とのコミュニケーションツールとして虹いろ保育所に導入



めざす状態[8年後]

産業構造や社会経済が大きく変革する時代の転換期を乗り越えて、住民の誰もが目的に応じてデジタル化の恩恵を受け、幸せに暮らすことができる。

富良野ならではのスマートシティに向けた取り組みがある。

主な施策[R5~R8年]

- ▶ デジタル化による行政事務の効率化を図ります。
 - オンライン会議・ペーパーレス会議の推進・RPAの導入による事務効率化
 - より効果的なデジタル化を促すための業務プロセス改革
 - 情報セキュリティ対策の強化
 - デジタル人材の育成
- ▶ デジタル化による利用者の利便性を高めます。
 - 情報発信ツールの利便性向上
 - 行政手続きのオンライン化の推進
 - 目的に応じたデジタル化の推進
 - オープンデータの活用促進
 - デジタル化に向けたサポート体制の構築

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	8年後(R12)
デジタル化の仕組み構築による住民サービスの利便性向上	デジタル庁が提示しているLWC客観的指標52.1	55.0	60.0
デジタル化により効率化した行政の業務数	3件(ペーパーレス会議、文書管理電子決裁、財務会計電子決裁)	5件	10件
市民の利便性向上のためのデジタル化導入事例数	3件(LINE、IoT除排雪、コドモン)	5件	10件
オープンデータの公開件数	5件	10件	20件

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

主担当部署 財政課・総務課・税務課・商工観光課・企画振興課

背景・課題

未来に向けて積極的なまちづくりを行っていくためには、自主財源の確保も必要となりますが、市民税や固定資産税などだけではなく、ふるさと納税や寄付など財源確保のための選択肢が増えてきました。

富良野市は、平成28年12月からポータルサイトを活用したふるさと納税の募集を開始したことで寄附額が増加しましたが、一部の地場産品のPRにとどまっており、富良野の魅力を伝えきれていない状況が続いています。

また、令和3年度より推進体制を見直し、中間事業者の導入や返礼品数や提供数の増加、ポータルサイトを増やすなどの取組を進めてきた結果、令和3年度のふるさと納税受入額は、約3億3千万円（前年比約349%）で道内66位/179自治体となっています。

寄付額の増加については一定の成果が出ていますが、更なる推進に向けた中長期的な推進戦略の作成が課題となっています。

新たな財源として、宿泊税導入を検討しておりましたが、観光振興財源検討有識者会議の提言を受け、令和2年度に推進する予定としていたものの、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、予定通りの時期で進めることは難しい状況となりました。

ふるさと納税、宿泊税に限らず、企業版ふるさと納税やクラウドファンディング、ネーミングライツなど、自主財源は創意工夫し多様な形で確保していく手段があるため、その体制づくりが必要となります。

DATA

▼道内自治体別ふるさと納税額

団体名	H29		H30		R1		ふるさと納税ランキング			人口	人口1人あたり(R1)		人口1人あたり ランキング
	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	H29(額)	H30(額)	R1(額)		円/人	件数/人	
北海道 紋別市	1,026,375	53,940	2,148,218	112,866	7,737,695	448,803	8	5	1	21,407	361,456	21.0	3
北海道 白糠町	1,855,610	96,061	3,213,510	186,036	6,733,389	460,533	3	4	2	7,588	887,373	60.7	1
北海道 根室市	3,973,346	242,022	4,957,077	314,041	6,589,107	413,575	1	2	3	25,052	263,017	16.5	6
北海道 八雲町	1,429,680	123,516	3,681,122	316,739	2,456,240	151,920	6	3	4	16,055	152,989	9.5	11
北海道 稚内市	1,547,284	90,872	1,060,433	69,321	2,106,439	139,892	5	9	5	33,249	63,353	4.2	36
北海道 千歳市	65,809	3,968	254,398	13,446	1,667,487	69,641	89	45	6	98,209	16,979	0.7	77
北海道 森町	2,980,582	244,298	5,908,852	498,334	1,604,762	74,969	2	1	7	14,989	107,063	5.0	18
北海道 上士幌町	1,666,930	88,116	2,085,441	118,522	1,550,080	83,275	4	6	8	4,981	311,199	16.7	4
北海道 網走市	644,915	13,772	1,455,305	51,623	1,320,424	39,913	10	7	9	34,740	38,009	1.1	46
北海道 旭川市	230,240	7,269	596,161	26,142	1,313,437	81,238	38	16	10	332,366	3,952	0.2	136
北海道 当別町	464,788	31,199	871,215	70,070	1,291,814	108,098	13	11	11	15,723	82,161	6.9	28
北海道 寿都町	1,332,661	115,271	1,142,522	94,575	1,113,075	92,440	7	8	12	2,903	383,422	31.8	2
北海道 滝川市	183,393	5,749	812,373	43,903	1,046,326	56,438	44	12	13	39,435	26,533	1.4	55
北海道 釧路市	417,664	16,720	781,641	33,729	1,025,393	40,251	18	13	14	166,358	6,164	0.2	122
北海道 赤平市	282,588	11,702	336,971	17,484	604,969	25,571	34	35	24	9,760	61,985	2.6	37
北海道 芦別市	327,695	1,886	211,002	1,393	571,198	3,022	27	46	26	12,916	44,224	0.2	42
北海道 東川町	230,907	11,559	400,414	21,786	500,260	18,199	37	26	30	8,281	60,411	2.2	38
北海道 三笠市	96,150	7,167	127,280	9,283	260,050	22,363	76	67	52	8,206	31,690	2.7	51
北海道 上富良野町	66,797	4,445	107,424	8,511	238,292	15,769	88	72	56	10,526	22,638	1.5	62
北海道 美瑛町	84,756	4,329	129,552	4,646	96,441	4,168	78	65	92	9,846	9,795	0.4	102
北海道 中富良野町	112,884	9,116	128,460	9,635	87,085	5,562	68	66	96	4,881	17,842	1.1	73
北海道 富良野市	68,216	4,019	48,702	2,885	61,510	3,324	87	113	108	21,235	2,897	0.2	143
北海道 南富良野町	12,520	343	16,207	828	12,357	715	151	152	161	2,405	5,138	0.3	126



めざす状態[8年後]

多様なつながりにより、市民や行政などのチカラを結集させ、未来への原資を独自に生み出し続けている。

主な施策[R5~R8年]

- ▶未来のための自主財源を生み出し続けるための仕組みを強化します。
- 戦略的かつ共創的に自主財源を確保する体制の構築
 - 戦略的かつ共創的な自主財源の創出

重要業績評価指標(KPI)

KPI項目	現状	目標	
		4年後(R8)	10年後(R12)
戦略的かつ共創的な自主財源確保のための体制の構築	検討中	～R5体制の構築	
戦略的な自主財源総額 内)ふるさと納税額	R3 3.3億円 内)3.3億円	8億円 内)8億円	10億円 内)10億円

主な事業(R5年度)

事業名	事業内容	事業状況

予算策定後記載予定

コンセプト	重点施策名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
輝く。 つながり合う。 ひとのWA!	1 市民ひとりひとりが幸福を実感するまち	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2 富良野ならではの子育て環境づくり	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	●	●
	3 郷土愛につながる富良野でしかできない「体験」の推進	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●
	4 いつもでも健康で自立できる心と体づくり	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	●
	5 富良野につながっている人が増える仕組みづくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
創る。 まわす。 しことのWA!	1 新たなチャレンジを応援する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2 地域内産業の付加価値を高め、稼ぐ力を強化する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
想う。 みかき合う。 まちのWA!	1 マッチングを通じて新たな価値を創造する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
感じる。 つなげる。 自然のWA!	1 豊かな自然環境を100年後につなぐ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
基本 アプローチ 「共創」	1 アイディアが生み出されカタチになる仕組みづくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
基本 アプローチ 「デジタル」	1 デジタル利活用による行政サービスの向上	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
「原資」	1 未来への原資を生み出し続ける	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※SDGs エスディージーズ：Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。



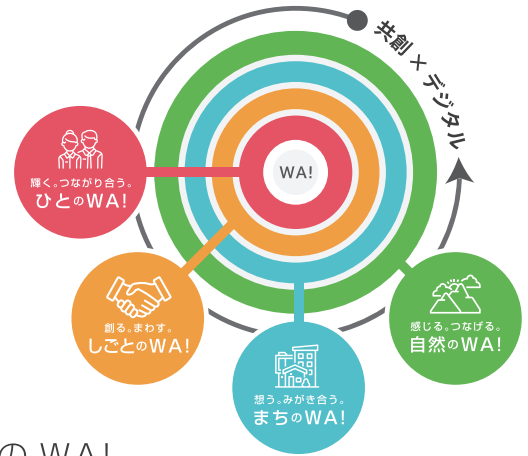
第 6 次富良野市総合計画

中期基本計画 **基本施策**



基本施策一覧

主 軸	分 野		施 策	
輝く。 つながり合う。 ひとのWA!	1	子育て	1	子育て P69
	2	学校教育	1	小中学校教育 P70
			2	高校教育 P71
			3	特別支援教育 P72
	3	社会教育	1	家庭教育 P73
			2	生涯教育 P74
			3	文化財保護 P75
	4	健康・医療	1	健康 P76
			2	地域医療 P77
	5	福祉	1	社会福祉 P78
			2	高齢者福祉 P79
			3	障がい者福祉 P80
	6	共生	1	人権尊重 P81
2			男女共同参画 P82	
3			多文化共生 P83	
7	文化・スポーツ	1	文化・芸術 P84	
		2	スポーツ P85	
8	移住・定住	1	移住・定住 P86	
9	関係人口	1	関係人口 P87	
創る。 まわす。 しごとのWA!	1	産業	1	農業 P89
			2	林業 P90
			3	商工業 P91
			4	持続可能な観光地域 P92
			5	滞在型観光 P93
			6	ワイン P94
	2	雇用・労働	1	雇用・労働 P95



4つのWA!

2つの基本アプローチ

主 軸	分 野		施 策	
想う。 みがき合う。 まちのWA!	1	都市基盤	1 道路	P98
			2 河川	P99
			3 公園	P100
			4 上下水道	P101
			5 都市計画	P102
			6 中心市街地	P103
			7 地籍調査	P104
	2	住宅	1 住宅	P105
			2 空家	P106
	3	地域公共交通	1 地域公共交通	P107
	4	情報ネットワーク	1 情報ネットワーク	P108
	5	安全安心	1 消防・救急	P109
			2 防災・減災	P110
			3 地域コミュニティ	P111
			4 交通安全	P112
			5 防犯	P113
			6 市民相談・消費生活	P114
	6	行財政	1 行政運営	P115
			2 財政運営	P116
感じる。 つなげる。 自然のWA!	1	自然環境	1 地球温暖化・環境保全	P118
			2 ごみ減量・再資源化	P119
			3 景観保全	P120



輝く。
つながり合う。
ひとのWA!

主軸	分野		施策	
	分野名	分野の方針	施策名	施策の目的
輝く。 つながり合う。 ひとのWA!	1 子育て	子どもが健やかに育ち、地域全体で子育てをするまちの実現	1 子育て	切れ目のない子育て支援
	2 学校教育	心豊かでたくましい子どもたちを育むまちの実現	1 小中学校教育	確かな学力の育成、教育環境の充実
			2 高校教育	市内高校の魅力づくりと生徒の確保
			3 特別支援教育	特別支援の多様化への対応と支援
	3 社会教育	創造性にあふれ、地域を愛する人材を育むまちの実現	1 家庭教育	家庭・地域教育力の向上、学校との連携・協働の推進
			2 生涯教育	人々の暮らしの向上と人生100年代を見据えた生涯学習の推進
			3 文化財保護	文化伝承活動と社会教育施設整備の推進
	4 健康・医療	心身ともに健康に暮らせるまちの実現	1 健康	ライフステージに応じた市民の健康づくりの推進
			2 地域医療	地域医療体制の充実
	5 福祉	誰もが自分らしく暮らせるまちの実現	1 社会福祉	自分らしく暮らせる地域づくりの推進
			2 高齢者福祉	住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援の充実
			3 障がい者福祉	障がい者が安心して暮らせる共生社会の推進
	6 共生	市民が国籍や性別などに関係なく、相互の人権を尊重し合えるまちの実現	1 人権尊重	人権への理解促進、普及啓発
			2 男女共同参画	男女共同参画社会の推進
			3 多文化共生	相互の文化等を認め合う環境の構築
	7 文化・スポーツ	文化・スポーツ活動を楽しむまちの実現	1 文化・芸術	多様な文化・芸術に親しめる機会の充実、環境の整備
			2 スポーツ	スポーツ活動の推進、スポーツ環境の整備
	8 移住・定住	人口減少化における人口・人材を確保するまちの実現	1 移住・定住	雇用と住環境を組み合わせた移住・定住の促進
	9 関係人口	人口減少化における関係人口を創出するまちの実現	1 関係人口	富良野を想う人とのつながりの創出と強化



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	1 子育て	1 子育て	こども未来課・虹いろ保育所 保健医療課	
施策の目的				
切れ目のない子育て支援				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R3 末)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
保育所待機児童数	実態調査	7 人	0 人	0 人
現状と主要課題				
○ 子育てにおいて、日常的に関わる祖父母の割合が低下し、緊急時に子どもを見てもらえる人がいないなど「孤育て」傾向が高まっています。 ○ 共働き世帯の増加や核家族化等により、教育・保育の多様なニーズが高まっています。 ○ 地域のつながりが希薄化する中で、子育てに不安や負担を感じている保護者が多くおり、地域における保護者同志のつながりや専門職とのつながりが求められています。 ○ 冬が長く、観光客の多い富良野市では、安心して子どもが遊べる場所や子育て世代の居場所が求められています。 ○ 地域社会全体で子育て、家事や仕事を両立できるような働き方を推進する必要があります。 ○ 地域周産期母子医療センターである富良野協会病院では、産婦人科の常勤医師2名と出張医により市内で出産することが可能な診療体制となっていますが、助産師の確保が課題となっています。 ○ 小児科医療については、富良野協会病院の常勤医師3名により、入院・救急を含めた診療体制が確保されています。 ○ 安心して妊娠・出産ができる医療体制の整備や小児医療の充実は、子育てを支える環境として重要な課題であります。				
施策の展開方向				
1.子育て支援 ・ 妊娠から子育てまでの総合的な支援の仕組みづくりを構築します。 ・ ヘソキッズランドの運営など、子育て世代の居場所づくりを進めます。 ・ 子育て情報発信の充実を図ります。 ・ 医師会及び地域センター病院との連携により、圏域の周産期医療・小児科医療体制の確保を図ります。 2.療育支援 ・ 支援の必要な児童の受入環境を整えます。 3.ひとり親支援 ・ 相談体制、情報発信の強化を図ります。 4.幼児教育・保育環境の充実 ・ 待機児童の解消を図ります。 ・ へき地保育所の柔軟かつ多様な受入環境づくりを進めます。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画／ R2(2020)～R6(2024)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	2 学校教育	1 小中学校教育	教育振興課	
施策の目的				
確かな学力の育成、教育環境の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
小中学校の 長寿命化改修棟数	校舎及び体育館の 改修実績(累計)	0 棟	1 棟	3 棟
地域の外部講師を 招聘した学校割合	実態調査	100%	100%	100%
現状と主要課題				
○ 未来を担う子どもたちが、知・徳・体の調和の取れた心豊かでたくましく生きる力を育むために、学力の基礎基本、基礎的体力・運動能力の定着を図り、学校・家庭・地域が連携した教育環境づくりに取り組んでいます。 ○ 全小中学校で、学校や地域の特性を生かした特色ある教育課程を進めるとともに、英語力向上のための外国語指導助手の派遣、演劇手法を用いたコミュニケーションプログラムを実施、地域資源を活かした森林学習プログラムなどを進めています。 ○ 少子高齢化をはじめ、グローバル化、情報化社会が進展するなか、学校施設の望ましい機能を的確に把握し、多様な変化に対応し得る弾力的な施設環境や教育の質の向上に資する施設環境の整備が求められています。 ○ 児童生徒1人1台の端末整備をしましたが、ICT の効果的な活用が図られるよう導入効果の検証を進め、更なる ICT を活用した教育環境の整備が必要となります。 ○ 市街地以外の学校では、児童生徒数の減少が著しく学校の適正規模・適正配置指針に基づく統廃合等の協議を進めながら、地域のニーズを踏まえた教育の確保を進める必要があります。 ○ 老朽化した学校施設は、効果的かつ長寿命化を踏まえた施設環境の維持が必要となります。				
施策の展開方向				
1. 確かな学力の向上 ・ 学力テスト等から現状を分析し、「分かる授業」への改善や教育課程の見直しを進めます。 ・ 児童生徒・保護者への適切な助言や学習内容の定着、学びを止めないための学習機会の確保を図ります。 2. 教育環境の充実 ・ 予防的な改修、アスベスト対策など施設の安全対策及び設備充実を図ります。 ・ 多様な学習内容や形態に対応した更なる ICT 環境の充実を図ります。 ・ 時代のニーズの対応した省エネルギー化、高効率な設備等の整備・更新を図ります。 ・ 外部人材を活用した各種教育活動を推進します。				
主要な個別計画等				
◆ 第1次富良野市教育振興基本計画／ R3(2021) ～ R7(2025) ◆ 富良野市学校施設長寿命化計画／ R2(2020) ～				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	2 学校教育	2 高校教育	教育振興課	
施策の目的				
市内高校の魅力づくりと生徒の確保				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
市内中学校卒業者の 地元高校進学率	実態調査	69%	70%	75%
現状と主要課題				
○ 少子化及び市外高校への流出などから、市内の 2 つの道立高校では定員に満たない状況が続いており、令和 7 年度に新設校として統廃合されることが決定しています。 ○市内中学校と富良野地区の高校では、地域の基幹産業を担う人材育成を目指し、双方が連携した学力向上プロジェクトチーム会議、各中学校での学校説明会、授業交流を実施しています。 ○ 富良野市の未来を支えるべき優秀かつ必要な人材育成のため、新設校における学科や教育課程について検討する必要があります。 ○ 生徒の多様なニーズを広く捉え、難関大学進学から就職まで対応できる高校、地域人材や特色を活かした高校など、将来を担う子どもたちを地域で育てる環境づくりのため、社会の変化や要請に応える高校づくりや協力支援体制を構築することが求められています。				
施策の展開方向				
1.魅力ある高校づくり ・ 地域や生徒の実情などを踏まえた多様な教育ニーズに合わせた教育環境を確保するため、北海道教育委員会へ要請を行うとともに、教育活動の充実に向けた協力支援を行います。 2.地域の子どもたちを地域で育てる体制づくり ・ 中学校と高校の交流を継続し、各段階での学力の把握と分析を進め、学力向上を図るとともに、地域資源を生かした特色ある教育活動のための協力体制を構築します。				
主要な個別計画等				
◆ 第 1 次富良野市教育振興基本計画／ R3(2021) ～ R7(2025)				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	2 学校教育	3 特別支援教育	教育振興課	
施策の目的				
特別支援の多様化への対応と支援				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
特別支援教育支援員 配置人数	配置実績	25 人	25 人	25 人
現状と主要課題				
○ 特別支援学級在籍者の割合は、年々増加傾向にあり、教育的支援も多様化しています。 ○ 障がいの有無に関わらず、すべての児童生徒に教育的支援の充実と体制の整備を図るため、特別支援教育アドバイザーを配置し、一人ひとりのニーズ把握や義務教育の前後における要支援児童生徒の支援内容の引継ぎ、保健医療福祉等と連携した就学相談や専門的な支援の充実に努めています。 ○ 支援を必要としている児童生徒に対し、特別支援教育支援員を配置するほか、通級指導教室「ことばの教室」を扇山小学校内に開設し、教員 3 名を配置しています。 ○ 各校のコーディネーターと支援員・教員・保護者が情報を共有し、連携を深めた支援や指導が必要であり、発達検査や教育相談の内容充実に向け、人材の確保と担当者のスキルアップが求められています。				
施策の展開方向				
1. 特別支援教育の充実				
・ 個別の支援計画「すくらむふらの」を活用した効果的な指導と支援の充実に図ります。 ・ 幼保・小・中・高等学校等の学校種間の円滑な接続と連携を強化します。 ・ 各校の状況に応じた特別支援教育支援員の適正配置を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 第 1 次富良野市教育振興基本計画／ R3(2021) ～ R7(2025) ◆ 富良野市第 4 次特別支援計画マスタープラン／ R3(2021) ～ R7(2025)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	3 社会教育	1 家庭教育	教育振興課	
施策の目的				
家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
家庭教育セミナー (中学校区)開催数	開催実績	3 回	3 回	3 回
子ども未来づくり フォーラム参加校数	小学校 参加実績	8 校	全校	全校
現状と主要課題				
【家庭教育】 ○ 少子高齢化・核家族化が進み、共働き世帯が増加するなどの社会情勢の変化により、家庭および地域での教育力の低下が指摘されるとともに、子育てに係る意識が希薄化しています。 ○ 教育委員会と小中学校、PTA、保育所、幼稚園、子育て支援センターが連携を図り、親子での体験活動等の学習機会を提供するなど、家庭の教育力の向上に向けた支援が必要となります。 【青少年教育】 ○ 青少年期は、家庭から学校そして社会へと活動の場が広がることから、様々な人々との交流や体験を通じ多くの事を学びながら成長する時期となります。このため自主的・主体的な活動の充実を図り、青少年の健全育成を推進する必要がありますが、地域との繋がりが希薄化しています。 ○ 地域資源を活かし、生きる力を身に付ける学習機会の提供や、そうした活動を支えるボランティアの育成、関係機関との連携が必要であり、放課後の子ども達の安心で安全な遊び場と学びの場を確保し、様々な体験を通じて社会性、協調性、ふるさとを愛する心を育む必要があります。				
施策の展開方向				
1.子ども子育て支援・家庭教育支援の充実 ・ 子どもの望ましい生活習慣の定着を推進するとともに、関係機関団体の連携・協働により、地域における家庭教育支援活動を支援し、家庭の教育力の向上を図ります。 2.青少年教育の推進 ・ 学校と地域が一体となって子ども達の成長を支えるため、地域学校協働活動による地域の教育力を活かした地域の特色ある子ども達の活動拠点づくりの推進を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 第1次富良野市教育振興基本計画／R3(2021)～R7(2025) ◆ 富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画／R2(2020)～R6(2024)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	3 社会教育	2 生涯教育	教育振興課 生涯学習センター 図書館	
施策の目的				
人々の暮らしの向上と人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
富良野市民講座	人口における 参加者割合	4.1%	4.1%	4.1%
市民 1 人あたりの 貸出冊数	年間貸出数／人口	5.8 冊	5.8 冊	7.0 冊
現状と主要課題				
【成人・高齢者教育】 ○ 成人教育は、多様化する学習ニーズに応え、趣味に偏らない現代的課題や地域・行政課題について学習機会の提供を継続していく必要があります。 ○ 成人学習ニーズの的確な把握と関係機関と連携した学習プログラムの充実が必要となります。 ○ サークル団体の会員増や活性化のための情報提供が必要となります。 ○ 高齢者教育は、「ことぶき大学」を開設し、小中学生、高校生、看護学校生との交流を行うほか、沿線自治体高齢者学校との交流も実施しています。 ○ 「ことぶき大学」は新入生が減少傾向にあり、学生の確保を図るため、楽しく魅力ある大学作りに努める必要があります。 【読書活動】 ○ 市民及び社会のニーズ、地域の実情等に配慮した図書館資料の収集及び提供、安全で快適な施設の運営とサービスの充実に取り組んでいます。 ○ 子どもたちの基礎的な学習能力を高め、豊かな心を育むため、家庭、地域、学校、行政が連携した読書環境の整備を推進しています。 ○ 地域の図書館として、図書館利用団体、読書推進ボランティアの育成と維持発展が必要であり、あわせて施設の老朽化に伴う適切な維持管理と運営が必要となります。 ○ 市民の図書館として、利用者へのサービス向上を図るため、総合的な利活用の検討が必要となります。				
施策の展開方向				
1.成人・高齢者教育 ・ 市民一人ひとりの生涯にわたる学習活動を促進し、地域の実態に即した学習環境づくりにより、学びの成果を暮らしの質的向上や地域社会に活かしていくことができるよう推進します。 2.読書活動の推進 ・ 家庭、地域、学校等における子どもの読書習慣の確立に努めるとともに、すべての市民が生涯学ぶことができる読書環境の充実を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 第 1 次富良野市教育振興基本計画／ R3(2021) ～ R7(2025) ◆ 富良野市第 2 期子ども・子育て支援事業計画／ R2(2020) ～ R6(2024)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	3 社会教育	3 文化財保護	生涯学習センター 教育振興課	
施策の目的				
文化伝承活動と社会教育施設整備の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
文化財指定数	指定件数 (累計)	4 件	5 件	7 件
文化活動や歴史・自然体験等 の博物館活動への参加者数	参加者数	148 人 (R3)	350 人	380 人
現状と主要課題				
○ 市指定有形文化財の保全活動のほか、未指定・未登録の文化財の調査を行い、見学会の実施など教育普及に努めています。また歴史的建造物等の文化財指定・登録推進のため、富良野市文化財保護審議会で審議の上、候補物件の所有者等と協議を行っています。 ○ 無形民俗文化財では、郷土芸能保存活動を支援していますが、後継者の育成が課題となっています。 ○ 郷土の自然、歴史、文化についての調査研究と資料等の収集保存に努め、それらを学び理解する機会を幅広く提供することで、郷土に対する意識高揚を図っていますが、郷土への理解と関心の一層の拡大や博物館活動の支援体制の確保などが課題となっています。 ○ 生涯にわたり学習できる社会教育活動施設として、健康で生きがいある充実した人生を送り、活力ある地域づくりのために、多様な学習機会の提供を図っています。 ○ 社会教育施設である公民館、生涯学習センター、図書館の機能充実に向けて、特色あるプログラムの充実や職員の専門性を図るとともに、施設の ICT 化による機能の充実が求められています。				
施策の展開方向				
1.文化伝統の保護継承				
・ 未指定文化財を調査し、所有者等と協議の上、地域固有の文化財の指定・登録等を推進します。				
・ 指定文化財の適切な維持管理に努めるとともに、文化財に関する情報の発信や文化財に親しむ機会の提供等により、文化財の活用に取り組みます。				
2.博物館活動の推進				
・ 調査研究活動の成果に基づいた特色あるプログラムの更なる充実に取り組むとともに、より多くの方が利活用できる環境を整えます。				
3.社会教育施設機能の充実				
・ 社会教育関係施設等の機能充実と安全で快適な環境整備に取り組みます。				
主要な個別計画等				
◆ 第1次富良野市教育振興基本計画／R3(2021)～R7(2025)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	4 健康・医療	1 健康	保健医療課	
施策の目的				
ライフステージに応じた市民の健康づくりの推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
特定健康診査受診率	法定報告	46.8% (R3)	55.5%	60%
特定保健指導実施率	法定報告	63.8% (R3)	66%	70%
現状と主要課題				
○ 特定健診受診率が伸び悩み、国の目標とする 60%には至っていません。生活習慣病による高額医療者の中に健診未受診者が多く、治療中であっても重症化し、介護認定を受ける者もいます。 ○ 令和元年国民健康・栄養調査では、生活習慣改善に「関心がない」「改善もするつもりはない」と答えた健康無関心層が約4割いるため、個人の特性に応じた予防対策や個人の健康づくりを応援するふらの健康ポイント事業などの健康づくりを、幅広く周知する必要があります。 ○ 人工透析となる腎不全の死亡が全道よりも高く、糖尿病が重症化すると、糖尿病性腎症に移行し人工透析となります。 ○ 高齢化の進展に伴い、1人あたりの後期高齢者医療費が、全国・同規模市町村よりも高い状況にあります。 ○ 少子化、核家族化の進展、地域のつながりの希薄化による育児経験の少ない世代が増加傾向にあり、子どもがどのように成長・発達していくのか知らないことで、不安を抱えながら育児している保護者がいます。 ○ コンビニやファーストフードなどの普及で飽食社会となり、妊娠期でも食生活に対する意識の低さや経験の乏しさが目立つ者もいます。 ○ 小学生の肥満傾向児割合が全道・全国よりも高く、子どもの肥満の約3分の2がそのまま大人の肥満に移行し、若い年齢で生活習慣病の発症を招くことが危惧されています。				
施策の展開方向				
1.健康づくりの支援 ・ 特定健康診査受診率、特定保健指導実施率の向上を図ります。 ・ ふらの健幸ポイント事業の参加促進に取組み、市民の健康づくりへの意識を高めます。 ・ 高齢者の保健事業と介護予防を一体的に取り組みます。 2.母子保健の充実 ・ 妊婦相談、乳幼児健診・相談における保健指導・栄養指導の充実を図ります。 ・ 幼児期に適切な食生活について子育て支援と連携した取り組みを行います。 ・ 学童の肥満傾向児の動向の把握と保健指導について、学校教育との連携を進めます。				
主要な個別計画等				
◆ 第2次富良野市健康増進計画／H25(2013)～R5(2022) ◆ 富良野市国民健康保険第二期保健事業実施計画・第三期特定健康診査等実施計画／H30(2018)～R5(2022)				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	4 健康・医療	2 地域医療	保健医療課 看護専門学校	
施策の目的				
地域医療体制の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
医師養成確保修学 資金貸付者数	貸付実績	5 人	6 人	10 人
現状と主要課題				
○ 富良野二次医療圏の医師数は、全道 21 医療圏の中で下から 6 番目と低く、看護職員も道内平均より少ない状況にあります。 ○ 地域センター病院である富良野協会病院の常勤医師は、新築移転した平成 19 年度の 27 人から令和 4 年 4 月時点で 23 人に減少しており、令和 4 年度からは循環器内科の常勤医師が不在となっていることで、循環器内科の患者数が減少し、病院経営も悪化しています。 ○ 常勤医師や看護職員が不足すると、救急医療の対応も困難になります。 ○ 旭川医科大学の医学生を対象に修学資金の貸付を行い、富良野協会病院での初期研修を義務づけすることで、研修医の確保とともに将来的な医師確保を目指しています。 ○ 令和元年度から地域センター病院の医師確保対策のための支援を強化し、内科医師の通年派遣体制を確保していますが、常勤医師の確保には至っていません。 ○ 看護職員の確保については、富良野市立看護専門学校において看護師の養成を行うとともに、看護学生に対して修学資金の貸付を行い、市内医療機関での 3 年間の就業を義務付けしていますが、義務期間終了後の定着者が少ない状況にあります。 ○ 富良野協会病院が、地域センター病院としての役割を担うためには、常勤医師(特に内科医)や看護職員の確保が大きな課題となっています。				
施策の展開方向				
1.地域医療体制の充実 ・ 医師会や地域センター病院及び圏域自治体との連携のもと、救急医療体制の維持を図ります。 ・ 富良野圏域医療の要である地域センター病院の医療体制の充実に向けて、医師や看護職員の確保対策を継続します。 2.看護人材の育成(看護専門学校の充実) ・ 富良野看護専門学校による看護師の育成を図ります。 ・ 看護職員養成修学資金の貸付を継続し、地域に定着する看護職員を確保し、市内就業を推進します。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	5 福祉	1 社会福祉	福祉課	
施策の目的				
自分らしく暮らせる地域づくりの推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
成年後見申立件数	申立実績	9 件	5 件	5 件
現状と主要課題				
○ 認知高齢者が増加しています。 ○ 高齢者の独居、夫婦世帯が増えています。 ○ 生活困窮者の自立相談支援等のニーズが増えています。 ○ 引き籠りが顕在化(8050 問題)しています。 ○ 判断能力が低下した時に契約や金銭の管理をする人がいない市民が 2 割を超えています。 ○ 障がい有する方の親亡き後が課題となっています。 ○ 支援が必要な方の発掘と支援に繋げるためのネットワークの構築が課題となっています。 ○ 成年後見制度の効果的な周知方法が必要となっています。				
施策の展開方向				
1. 成年後見制度利用の促進 ・ 成年後見制度の周知啓発を図ります。 ・ 相談、支援体制の充実を図ります。 ・ 後見人支援機能の充実を図ります。 ・ 中核機関設置と地域連携ネットワークの構築を図ります。 2. 民生委員児童委員との連携の強化 ・ 住民支え合いマップの取組みへの支援の充実を図ります。 3. 生活困窮者自立支援制度の推進 ・ 生活困窮者自立支援制度の周知啓発を図ります。 ・ 相談、支援体制の充実を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 第 3 期富良野市地域福祉計画／ R3(2021) ～ R7(2025) ◆ 富良野市自殺対策計画／ R1(2019) ～ R5(2023)				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	5 福祉	2 高齢者福祉	高齢者福祉課	
施策の目的				
住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
介護予防活動 参加者	サロン・教室活動等 参加数	17,843 人	18,560 人	20,000 人
現状と主要課題				
○ 高齢者の独居世帯が増加傾向にあり、日常生活を支援できる親族が近くにいない状況です。 ○ 要支援・要介護認定率が高いまま推移しており、介護予防及び重度化予防が課題となっています。 ○ 介護サービスを必要とする高齢者が増えており、必要な支援や介護サービスに繋がられない事態が発生するおそれがあります。 ○ 介護人材(専門職)不足により、多様な介護のニーズに応えられなくなる可能性があります。 ○ 高齢者の移動手段が少ない状況や外出困難な地域があり、移動手段に対する支援が必要となっています。				
施策の展開方向				
1. 高齢者の生活支援 ・ 在宅生活を支えるサービスの充実を図ります。 ・ 介護人材の確保に取り組みます。 ・ 高齢者が外出する際の移動手段に対する支援について検討します。 2. 高齢者の介護予防・重度化予防 ・ 市民主体の活動による介護予防に取り組みます。 ・ 保健事業と介護予防事業の一体的な実施と地域で取り組む介護予防活動や事業所へリハビリテーション専門職員を派遣し、介護予防・重度化予防に取り組みます。				
主要な個別計画等				
◆ 第 8 期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画／ R3(2021) ～ R5(2023)				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	5 福祉	3 障がい者福祉	福祉課	
施策の目的				
障がい者が安心して暮らせる共生社会の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
障がい者福祉 サービス等利用者	利用実績	279 人	291 人	291 人
現状と主要課題				
○ 高齢化や核家族化により、障がい者を支援している家族や親族が減少しているため、障がい者福祉サービス等の利用や社会参加を促進する必要があります。 ○ 難病患者等を含む障がい者福祉の対象者が拡大しており、医療費等の経済的負担軽減と教育、生活、就労等への支援が必要となります。 ○ 必要な支援などのニーズが多様化しており、障がい者の実態の把握が必要となります。 ○ 地域で生活する障がい者等への理解と知識を深める事が必要となります。				
施策の展開方向				
1.障がい者の共生社会の推進				
・ 生活支援や生活環境の整備を推進します。 ・ 教育や発達支援の充実、保健医療の推進を図ります。 ・ 就労支援や就労相談等の充実を図ります。 ・ 障がいに対する啓発活動や情報提供、ボランティア活動を推進します。 ・ 権利擁護の推進、虐待や差別の解消を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 第4期富良野市障がい者計画／ H30(2018) ～ R4(2022) ◆ 第6期富良野市障がい福祉計画／ R3(2021) ～ R5(2023) ◆ 第2期富良野市障がい児福祉計画／ R3(2021) ～ R5(2023)				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	6 共生	1 人権尊重	市民相談室	
施策の目的				
人権への理解促進、普及啓発				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
人権擁護委員数	法務省による 委嘱人数	6 人	6 人	6 人
現状と主要課題				
○ 人権擁護委員と連携し、総合相談会(年2回)での特設人権相談の実施や、令和2年度には「人権の花運動」を実施するなど人権意識の高揚と啓発を進めています。 ○ 市内には現在6人の人権擁護委員があり、市民一人ひとりが人権意識を高め、理解を深めてもらうため、幼稚園・保育所、小・中学校での人権教室の開催や高校・看護専門学校でのデートDV予防教育、高齢者施設で紙芝居による啓発活動を行っています。				
施策の展開方向				
1.人権尊重社会の構築				
・ 人権擁護委員や関係機関等と連携し、人権意識の高揚と啓発活動を進め、相談体制の充実を図ります。 ・ 市民が人権を自分自身の課題として理解し、人権が尊重されるまちづくりに取り組みます。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	6 共生	2 男女共同参画	コミュニティ推進課	
施策の目的				
男女共同参画社会の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ 日本社会で培われた慣習など男女の役割については根深いものがあり、こうした考え方が男女の多様な生き方を妨げることにもつながるため、固定的な性別による役割分担意識を変えていく必要があります。 ○ 学校教育の中では、男女平等の視点に立った学習機会が提供されており、若い世代には男女共同参画の意識が浸透してきています。 ○ 社会の多様性と活力を維持していくためには、男女が自らの意思に基づき、個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の推進を図っていく必要があり、社会全体で取り組むべき重要な課題となっています。				
施策の展開方向				
1.男女共同参画社会の構築				
・ 男女共同参画に向けた意識づくりを図ります。 ・ あらゆる分野における男女共同参画を推進します。				
主要な個別計画等				
◆ 第2次富良野市男女共同参画推進計画／ R1(2019) ～ R10(2028)				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	6 共生	3 多文化共生	コミュニティ推進課	
施策の目的				
相互の文化等を認め合う環境の構築				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ 外国籍の住民数は年々増加し、特に中国からの入国が顕著でしたが、近年はベトナムからの入国が増えています。 ○ 国籍や文化の違いがある中で、生活実態やまちづくりについて考え方等を把握しておらず、お互いに安心して生活できる地域コミュニティとの関わりは不十分な状況にあります。 ○ 外国人観光客も増加し、北の峰地区を中心に外国資本による資産の取得、ホテルやコンドミニアムの建設が進んでおり、地域コミュニティの維持が課題となっています。 ○ 国籍や文化の違う市民のコミュニケーションを図り、まちづくりに対する多様な意見を把握する必要があります。 ○ 外国人市民も参加できる交流機会を増やすとともに、自治会活動などにも参加しやすい環境づくりが必要となります。				
施策の展開方向				
1. 多文化共生社会の構築				
・ 地域活動の多言語による情報提供を行いながら、外国人市民のコミュニティ活動への参加を促進します。 ・ 外国人市民の意見を把握するため、相談窓口の充実を図ります。 ・ 外国人市民との交流活動を充実させ、住みやすい環境づくりを進めます。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	7 文化・スポーツ	1 文化・芸術	コミュニティ推進課	
施策の目的				
多様な文化・芸術に親しめる機会の充実、環境の整備				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 12)
文化会館 利用者数	利用実態	77,098 人	80,000 人	80,000 人
現状と主要課題				
○ 各地区文化協会や文化団体協議会、富良野演劇工房などと連携し、市民が文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、サークルや団体の育成支援を行っています。 ○ 富良野演劇祭の開催や市民劇の活動等により、高校の演劇が活発になるなど新しい目が育っています。 ○ 文化協会の加盟団体は、会員高齢化による活動中止や新たな加盟団体が少なく、加盟団体が減少しています。 ○ ダンスなどの新しいジャンルの活動が増え、文化団体との交流や発表機会を拡充していく必要があります。 ○ 富良野演劇工場は建設後 20 年が経過し、計画的な修繕や設備の更新が必要となります。				
施策の展開方向				
1.文化・芸術活動の推進 ・ 多様な文化・芸術に触れる機会を提供し、市民の主体的で個性豊かな活動を助長します。 ・ 富良野演劇工場を演劇文化の拠点、文化・芸術の発信拠点として運営します。 2.文化・芸術施設の環境整備 ・ 市民が利用しやすい文化施設の整備、運営を図ります。 ・ 富良野演劇工場は、計画的な修繕及び設備の更新をし、施設の長寿命化を図ります。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	7 文化・スポーツ	2 スポーツ	コミュニティ推進課	
施策の目的				
スポーツ活動の推進、スポーツ環境の整備				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
スポーツセンター 利用者数	利用実態	75,916 人	80,000 人	80,000 人
現状と主要課題				
○ スポーツ協会や地域の体育振興会、スポーツ推進委員と連携し、健康づくりや体力向上のために、市民誰もが生涯の各時期にスポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会の提供に努めています。 ○ スポーツセンター、屋外スポーツ施設及び有料パークゴルフ場を指定管理者に委託し、運営しています。 ○ 生活様式や娯楽の多様化により若い世代のスポーツ離れが進んでおり、幼児期から高齢期までの各期に合わせたスポーツ活動の機会の充実が求められています。 ○ スポーツ推進委員の担い手が不足しています。 ○ 一流選手のプレーを見たり、指導を受ける機会が不足しています。 ○ 3カ所ある有料パークゴルフ場の利用者が減少しています。 ○ 総合スポーツ公園及び河川運動公園については、老朽化、狭隘化が進んでいることから、利用者の利便性向上を踏まえて、計画的な整備が必要です。				
施策の展開方向				
1. スポーツ活動の推進 ・ スポーツ協会などの団体と連携し、スポーツに親しむ機会を提供します。 ・ スポーツ推進委員により、新たな軽スポーツの普及を図ります。 ・ 一流選手の技術を感じることができる機会を提供します。 2. スポーツ施設の環境整備 ・ スポーツセンターの耐震改修をはじめ、必要な改修等を計画的に行います。 ・ スポーツ施設の集約と移転を検討します。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	8 移住・定住	1 移住・定住	企画振興課	
施策の目的				
雇用と住環境を組み合わせた移住・定住の促進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4.8)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
移住情報サイト 新規ユーザー数	移住情報サイト 月別訪問者数	1,442 人	1,000 人	1,000 人
現状と主要課題				
○ 移住相談ワンストップ窓口を設置し、移住希望者からの相談に対応しています。 ○ 移住促進情報サイト「リビング・フラノ」による仕事や住宅などの情報を発信しています。 ○ 全国各地で移住・定住の取り組みが行われ、移住相談件数が減少傾向にあります。 ○ 転入者の減少、転出者の増加が続き、企業等の労働力不足が課題となっています。				
施策の展開方向				
1.移住・定住の促進				
・ 移住促進情報サイト「リビング・フラノ」による仕事や住宅などの情報発信の強化を図ります。 ・ 転出者及び転入者の状況把握と分析による施策、ワーケーションやふるさと納税などの関係人口創出から移住・定住につなげる施策の検討を行います。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 輝く。つながり合う。ひとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
輝く。つながり合う。 ひとの WA!	9 関係人口	1 関係人口	企画振興課	
施策の目的				
富良野を想う人とのつながりの創出と強化				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
ワーケーション実証 などで繋がった関係 人口数	ワーケーション Facebook グループ 登録者数	100 名	300 名	500 名
現状と主要課題				
○ 国内有数の観光地や地名が持つブランド力などの強みを活かした、地域と多様に関わりを持つ者「関係人口」の創出に向けた取り組みについてワーケーション実証の受入を行っていますが、中長期的視点で、ワーケーション実証からサテライトオフィス進出、ローカルベンチャー、転職なき移住など副次効果に繋げる展開が必要であります。 ○ 既存施設や宿泊施設などの既存施設を活用し、企業等がリモートワークを行うため、Wi-Fi 環境やオンライン会議スペース等のワークプレイスを整備・改善する必要があります。				
施策の展開方向				
1. 関係人口の創出と強化 ・ 情報通信技術の進展、多様な働き方を踏まえ、首都圏等の企業や個人事業主などのニーズに対応したテレワークの受入環境(ソフト・ハード)整備を進めます。 ・ ワーケーションによる地域住民や企業との交流、地域課題解決によるビジネスマッチングなどのローカルベンチャー支援やサテライトオフィス誘致などの地域振興を図ります。 ・ 空家、空店舗の有効活用による都市と地域住民の交流など、コミュニティ創出に向けた施策を検討します。				
主要な個別計画等				

基本施策



創る。
まわす。
しごとのWA!

主軸	分野		施策	
	分野名	分野の方針	施策名	施策の目的
創る。 まわす。 しごとのWA!	1	産業 多様な地域資源の活用、チャレンジする活力があるまちの実現	1 農業	農業・農村の持続性の確保
			2 林業	森林の適正な管理と保全
			3 商工業	多様な業種による均衡のとれた商工業の推進
			4 持続可能な観光地域	持続可能な観光地域づくりの推進
			5 滞在型観光	オールシーズン滞在型の国際観光地の推進
			6 ワイン	ワイン事業の安定的な振興
	2	雇用・労働 安心して働けるまちの実現	1 雇用・労働	多様な働き方と働く場の創出



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
創る。まわす。 しごとの WA!	1 産業	1 農業	農林課 農業担い手育成センター	
施策の目的				
農業・農村の持続性の確保				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
スマート農業導入戸数	補助実績	41 件	100 件	120 件
優良農地面積	農業振興地域等 整備計画	10,627.1ha	10,627.1ha	10,627.1ha
GAP 取組数	取組実績	個人 19 人 団体 1 組	個人 20 人 団体 1 組	個人 22 人 団体 1
新規就農者数	就農実績	14 人 / 年	8 人 / 年	8 人 / 年
現状と主要課題				
【農業生産・担い手・働き手】 ○ 農業生産は、農家数や働き手等が減少する中、高性能・省力化機械の導入や作物体系の合理化により、農業経営体が規模拡大することで生産体制を維持していますが、農産物の集出荷体制見直しも必要となっています。 ○ 農外出身者を農業の担い手とするため、H26・27 に農業担い手育成センターを整備し、H27 から就農希望者を受け入れていますが、農作業全体の働き手の確保は引き続き課題となっています。 【生産基盤】 ○ スマート農業等に対応できる圃場とするため、計画的に基盤整備に取り組む必要があります。 【農村】 ○ 農村資源の維持管理に係る共同活動が継続され、荒廃農地の発生を抑えていますが、共同活動は農村地域の高齢化により担い手が減少し、更に経営規模拡大に伴い労働時間が伸びており、共同活動に充てる時間が減少傾向にあります。 ○ エゾシカ、アライグマ等による農作物被害が発生しており、侵入防止施設等の老朽化に伴う侵入防止効果の低下が見受けられ、農村資源の管理体制の再編、強化に取り組む必要があります。 【安全・安心】 ○ 消費者に安全な農産物を届けることに役立つ GAP や環境負荷の低い農法などに取り組む農業者が増えていますが、環境負荷に配慮した作業、農法の一層の浸透が必要となります。				
施策の展開方向				
1. 持続可能な農業の推進 ・ 経営の維持・拡大を図るため、スマート農業による省力化や作業効率化など生産体系の再編を支援します。 ・ 国費、道費等を活用し、農産物の集出荷施設の再編強化を支援します。 2. 優良農地・農村活力の維持 ・ 優良農地を維持・確保するため、計画的な基盤整備を推進します。 ・ 農村資源の維持管理活動を支援し、管理体制の再編強化の取り組みを促進します。 3. 農畜産物の安全・安心の確保 ・ GAP、HACCP、環境負荷を低減する農法に取り組む農業者を拡大します。 4. 農業担い手の確保・育成 ・ 農業担い手育成センターを拠点とした農外出身者の受入を継続し、受入対象者の多様化を検討します。 ・ 新たな働き手の確保に向け、農業者団体等による情報発信の強化や農業者とのマッチング等の取り組みを支援します。				
主要な個別計画等				
◆ 第3次富良野市農業及び農村基本計画／ R1(2019)～ R5(2023) ◆ 富良野市酪農・肉用牛生産近代化計画／ H28(2016)～ R7(2025) ◆ 富良野市鳥獣被害防止計画／ R1(2019)～ R3(2021)				



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
創る。まわす。 しごとの WA!	1 産 業	2 林 業	農林課	
施策の目的				
森林の適正な管理と保全				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
市有林面	森林統合 クラウドシステム	836ha	836ha	840ha
現状と主要課題				
○ 市有林は 836ha を保持し、計画的な施業を行い、適性管理に努めていますが、高齢級化している市有林の計画的な更新が必要となります。 ○ 民有林も計画的な施業を行い、適性管理に努めていますが、管理の行き届かない民有林が見受けられます。 ○ 森林経営管理法のもと、新たな民有林の適正管理への円滑な移行が必要となります。				
施策の展開方向				
1. 森林の管理保全				
・ 森林が持つ多面的機能を維持しつつ、機能に応じた森林の計画的な整備と適正管理を図ります。 ・ 森林経営管理法に基づき、経営意欲のある林業経営者へ継承する、又は市が直接管理することで、管理の行き届かない民有林を減らします。 ・ 森林作業員を確保するために、事業者による就業条件整備を支援します。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市森林整備計画／ R1(2019) ～ R10(2028)				



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
創る。まわす。 しごとの WA!	1 産 業	3 商 工 業	商工観光課	
施策の目的				
多様な業種による均衡のとれた商工業の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
創業者向け支援制度 活用件数	活用実績	8 件／年 (R3)	12 件／年	15 件／年
メイドインフラノ 認定商品数	認定実績	66 商品	70 商品	100 商品
メイドインフラノ 認定事業者数	認定実績	14 事業者	16 事業者	20 事業者
現状と主要課題				
○ 中小企業振興では、市内中小企業や商店街の経営者の高齢化が進み、後継者が不在であるなど今後の事業の見通しが難しくなっていることから、経営存続に向けて事業拡大や新たな事業展開を目指すことが可能な経営環境を整備し、これまで培ってきた技術や資産を次の世代へ引き継ぐことができるように経営基盤の強化が求められています。 ○ 創業支援では、富良野商工会議所や山部商工会と連携して、事業開始に必要な経営指導、空き店舗等の情報提供、家賃補助、融資のあっせん等により円滑な事業開始を支援しています。一方で移住者が創業を希望する事例も増えており、資金面や住宅など生活基盤も含めて相談窓口が多岐に渡っていることから、ワンストップ対応が可能な支援体制が必要となっています。 ○ 地域特産品の開発では、メイドインフラノ認証制度により、地元農産物を加工した新たな特産品開発を推奨してきており、事業者へ加工技術の研鑽や販路拡大を促すことで、加工品の品質向上や経営基盤の安定化につなげています。認証制度の周知、認証後のフォローアップや認証を目指す事業者の育成のほか、効果的なブランド力の発信が課題となっています。				
施策の展開方向				
1. 中小企業の振興 ・ デジタルツール活用を促し、後継者や労働力不足を補い、労働生産性を高め、様々な業種において効率的かつ安定的な経営環境を構築します。 ・ 魅力ある小売業や飲食業を集積させた買い物環境や飲食空間を創出し、市民や観光客が魅力を感じ、再訪したくなる交流拠点づくりを進め、まちなかでの消費喚起を図ります。 ・ 先進的な商品開発や経営形態を目指す事業者に対して、新たなビジネスモデルの構築を支援します。 2. 創業支援 ・ 移住から創業まで一貫した支援体制を構築し、新規参入者による創業件数の増加を図ります。 ・ 創業を目指す担い手育成のために、創業気運の醸成につながる施策を展開していきます。 3. 地域特産品の開発 ・ 特産品開発へのインセンティブを高め、農業から商工業への経済波及効果を向上します。 ・ 地域特産品のブランド力向上を図ります。 ・ 地産地消の意識を醸成し、地域経済の循環を促進します。				
主要な個別計画等				
◆ 地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく同意基本計画／ H30(2018) ～ R4(2022) ◆ 生産性向上特別措置法に基づく導入促進基本計画／ H30(2018) ～ R5(2023) ◆ 産業競争力強化法に基づく創業支援等事業計画／ H26(2014) ～ R5(2023)				



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署
創る。まわす。 しごとの WA!	1 産業	4 持続可能な観光地域	商工観光課

施策の目的

持続可能な観光地域づくりの推進

成果指標

指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
JSTC-D 指標の実施 済みの指標の数	実態調査	50 項目／ 113 項目	60 項目／ 113 項目	70 項目／ 113 項目
GSTC の公認講習の 修了者数	実態調査	12 人	30 人	45 人

現状と主要課題

○コロナ前、ここ 10 年間のあいだにおいては、訪日外国人観光客の急速な増加も一因として、一部の地域では、地域住民や来訪者の間で、混雑やマナー違反などの課題への関心が高まっており、これに呼応して、いわゆる「オーバーツーリズム」に関する報道も見受けられました。

○富良野市において総額 155 億円もの売上減少(令和 2 年度)が発生するなど、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、特に、観光関連産業は、たいへん厳しい時期を迎えました。こうした危機的状況における危機管理、「持続可能」な観光地域づくりが重要であるといえます。

○今後、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを実現するためには、観光客と地域住民の双方に配慮し、多面的かつ客観的なデータ計測と中長期的な計画に基づく総合的な観光地マネジメントを行うことが重要です。

○具体的には、観光客に向けた観光地の受入環境整備とあわせて、感染症対策や災害に備えた危機管理、地域の自然環境や文化遺産の保護、観光を地域の経済や社会の発展につなげ、地域住民が観光による恩恵を実感できること、先人たちが守ってきた地域の価値を次世代に確実に受け継いでいくことなどが求められてい。

施策の展開方向

1. データの収集・活用と、エビデンスベースの政策形成

- 観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTC-D)」の各指標について、どこまでできているのか、セルフチェックし、可能な限りすべての指標でデータを収集しモニタリングできる体制を構築します。
- 市役所内における横断的な連携体制を構築し、データ収集を円滑に行います。
- 収集したデータや、モニタリング結果は、市民やステークホルダーへ公開し、意見聴取の機会をつくります。
- これらをベースに、JSTC-D の指標の一つでも多く達成できるよう、エビデンスに基づく政策形成を行います。

2. 観光マネジメントの強化

- 「持続可能」な状況の達成に向け、適切な観光地域マネジメントができる体制を構築します。地域 DMO もその選択肢の一つとなります。

主要な個別計画等

◆FURANO VISION 2030(ふらのビジョン 2030)／H30(2018)～R12(2030)



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
創る。まわす。 しごとの WA!	1 産業	5 滞在型観光	商工観光課	
施策の目的				
オールシーズン滞在型の国際観光地の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
観光客入込数 年間宿泊延数	実態調査	298,351 泊 (R3)	748,000 泊	900,000 泊
観光客入込数 年間外国人宿泊延数	実態調査	1.395 泊 (R3)	173,000 泊	250,000 泊
総合満足度	満足度調査	96.6% (R3)	81.5%	85.0%
旅行消費単価	満足度調査	30,029 円 / 人 (R3)	68,000 円 / 人	80,000 円 / 人
リピート率(再訪問意向)	満足度調査	77.0% (R3)	67.5%	80.0%
現状と主要課題				
○ 観光を取り巻く現状は、団体旅行から個人旅行への世界的な旅行形態の移行、ドラマロケ地観光の訴求力低下、国内市場が縮小する反面で海外市場が拡大している状況、観光入込の季節格差(ハイシーズン：夏冬／ローシーズン：春秋)などが代表的なものとして挙げられ、国内外を問わず選ばれ続ける観光地を目指して、魅力の向上と創出が課題となります。 ○ 満足度調査の母数が少ないことから数値が不安定であり、直近令和3年度の調査では総合満足度・リピート率いずれも良い結果数値を獲得しています。今後これを安定的に維持できるかどうかは、戦略的な施策展開が必要となります。旅行消費額については、コロナ禍に伴う日帰り観光が影響し、低い数値となっています。アンケートの徴取方法についても、デジタルを用いた手法も含めて有効かつ母数拡大が必要であり、目標達成のためのマーケティング方法と結果の検証方法の構築が課題となります。 ○ 産業の持続性、安定化を図るために必要不可欠である人材確保については、人口減少などの課題も相まって顕著であります。観光入込の季節格差は、通年型の雇用を生むことができないという課題にも結び付いています。 ○ 外国人観光客の増加に伴い、宿泊料金の高騰に見合うサービスの向上は必須であり、反面、国内客にも選んでいただける料金やサービスの見直しを図り、一方に偏らない誘客戦略が必要となります。				
施策の展開方向				
1. 通年型・滞在型観光の推進 ・ 閑散期(オフシーズン)におけるコンテンツを磨き上げ、効果的な情報発信により、観光客入込数を平準化させ、雇用の安定化を図ります。 ・ のんびりできる拠点の確保、回遊性の強化、長期滞在できる観光地づくりを推進し、観光消費額の向上を図ります。 2. 国際観光地としての受入環境整備 ・ 旅前、旅中、旅後での情報収集の改善を図り、スムーズに情報提供ができる仕組みを構築します。 ・ ターゲット市場を明確化し、デジタル環境や生活文化、食文化に対応する環境を整備し、富良野らしさを維持しながら魅力をアピールできる観光地を目指します。 ・ 持続性ある受入体制を強化するため、まち全体での統一したホスピタリティの向上を図ります。 3. 観光マネジメントの強化 ・ デジタル活用による利便性向上や観光コンテンツのガイド、マーケティング等の観光専門人材の育成や確保を継続的に推進し、観光マネジメント組織の確立を目指します。 ・ 宿泊税導入を推進し、確かな観光振興財源を確保することで、地域が観光で稼ぐ仕組みを構築します。 ・ リピート率の向上や富良野市への投資・消費拡大を図るため、デジタルを活用した観光マーケティングを推進します。				
主要な個別計画等				
◆ FURANO VISION 2030(ふらのビジョン 2030)／H30(2018)～R12(2030)				



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
創る。まわす。 しごとの WA!	1 産業	6 ワイン	ぶどう果樹研究所	
施策の目的				
ワイン事業の安定的な振興				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 12)
ふらのワイン 年間販売本数	販売実績	19.9 万本	24.5 万本	27.5 万本
現状と主要課題				
○ 安定経営のためのぶどう生産量を確保するため、ぶどう栽培農家の支援を継続する必要があります。 ○ 老朽化した施設の改修を行い、安全・安心で消費者ニーズに応える新しい製品づくりや魅力ある見学施設に整備する必要があります。 ○ ワインの生産本数・販売本数の減少により、収益が減少していることから、経営戦略に基づく計画的かつ合理的な経営改善が必要となります。				
施策の展開方向				
1. ワイン事業の推進 ・ ぶどう果樹経営支援対策事業の支援の拡充を図ります。 ・ 施設の改修や製造機械類の更新を計画的に実施します。 ・ 中長期的な経営戦略を策定し、経営健全化を進めます。				
主要な個別計画等				
◆ ふらのワイン経営戦略／ R3(2021) ～ R12(2030)				



基本施策 - 創る。まわす。しごとの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
創る。まわす。 しごとの WA!	2 雇用・労働	1 雇用・労働	商工観光課 企画振興課	
施策の目的				
多様な働き方の働く場の創出				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			2 年 後 (R4)	10 年 後 (R12)
市内出身高校生の 市内事業所就職率	状況調査	45.7%(R3)	52%	55%
現状と主要課題				
○ 新規学卒者の地元企業への就業が5割を切る状況であり、希望業種とのミスマッチなどから市外へ労働力が流出し、生徒数の減少が進む中で、地元企業における人材の確保が難しくなっています。 ○ 新規学卒者や UIJ ターン者が地元企業への就業を考える機会が少ないことや企業側の雇用環境が十分整っていないことなどにより、地元企業への求職者数が少なくなっています。 ○ 地元高校生を対象とした企業説明会の開催やしごと情報発信サイト「フラノジョブスタイル」を運営し、広報等を通じて U ターン者、シニア世代、子育てママなど潜在的な労働力の掘り起こしを行ってきています。 ○ 沿線自治体と富良野広域圏通年雇用促進協議会を運営し、資格取得促進事業など季節労働者の通年雇用化を図っています。 ○ 外国人労働者は、市内でも受入れる事業者が徐々に増えていることから、国の法律改正を注視し、事業者のニーズを把握していく必要があります。 ○ 企業誘致向けの市有地が無く、地域の人材(雇用労働力)不足も企業誘致の点からはマイナス材料となっています。 ○ 北の峰エリアを中心としたホテル建設等があり、企業等の進出が見受けられます。				
施策の展開方向				
1.雇用・人材確保対策 ・ 地域特性や時代の流れに即した人材育成を支援します。 ・ 福利厚生の実施や働き方改革の推進により、求職者各層のみならず、外国人労働者にも就労先に選択されるよう魅力向上に取り組む地元企業を支援します。 ・ 新規学卒者・UIJ ターン者・子育てママ・シニア世代の地元企業への就業を支援します。 ・ 外国人労働者や副業・兼業人材を受け入れる環境づくりを進めます。 2.企業誘致の推進 ・ 企業等のテレワークの受入による「関係人口」の創出により、企業等との連携や関係構築を図ります。 ・ ICT、高等教育学校、宿泊施設など地域資源を生かした企業の誘致を推進します。				
主要な個別計画等				



想う。
みがき合う。
まちのWA!

主軸	分野		施策	
	分野名	分野の方針	施策名	施策の目的
想う。 みがき合う。 まちのWA!	1 都市基盤	快適な都市空間を形成する まちの実現	1 道路	安全で快適な道路空間の確保
			2 河川	災害に強い河川の維持管理
			3 公園	安全で快適な公園の充実
			4 上下水道	安全な上下水道の安定供給と持続性の確保
			5 都市計画	富良野らしい良好な都市計画の形成
			6 中心市街地	コンパクトシティの推進
			7 地籍調査	地籍調査の円滑な推進
	2 住宅	多様な世代・世帯が安心して住み続けられるまちの実現	1 住宅	良好な居住環境の形成
			2 空家	空家対策の推進
	3 地域公共交通	利便性の高い地域公共交通を形成するまちの実現	1 地域公共交通	総合的な地域公共交通体系の構築
	4 情報ネットワーク	デジタルを目的に応じて活用できるまちの実現	1 情報ネットワーク	情報ネットワーク環境の充実と活用
	5 安全安心	安心・安全で快適に暮らせるまちの実現	1 消防・救急	消防力及び救急体制の強化
			2 防災・減災	防災対策の推進、防災意識の啓発と高揚
			3 地域コミュニティ	地域コミュニティの再構築と活性化
			4 交通安全	交通安全対策の充実
			5 防犯	防犯対策の充実
			6 市民相談・消費生活	市民相談・消費生活相談の充実
	6 行財政	効率的で効果的な行財政力が発揮されるまちの実現	1 行政運営	効率的な行政運営
			2 財政運営	健全な財政運営



主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	1 道路	都市施設課	
施策の目的				
安全で快適な道路空間の確保				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ 令和 3 年度末で 966 路線・262 橋梁を含む実延長 671 km の市道があります。内改良済み延長は 261 km（38.90％）、410 km の市道が未改良であり、671 km の内 327 km が未舗装にあります。未改良道路を含め 607 km が歩車混在道路となっており、このような状況の中、既設舗装や道路附帯施設（路面排水施設・照明・道路標識・防護柵等）、橋梁の老朽化が著しい状況にあります。 ○ 老朽化した施設を放置することによる通行制限、車両の破損、道路標識や照明柱の倒壊等の事故などにつながる事が予想されるため、道路改良計画・道路保全計画を策定し、道路環境の向上及び安全な道路交通確保が必要となります。				
施策の展開方向				
1. 道路環境の整備				
・ 道路施設の修繕・清掃を行い、道路環境を向上させ、安全な道路交通を確保します。 ・ 土木機械車両老朽化に伴う修繕費の抑制と維持工事等の作業効率の向上を図ります。 ・ 冬期間の交通安全の確保、市民生活環境の向上を図ります。 ・ 道路愛護組合による各種事業を推進します。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市橋梁長寿命化修繕計画／ H26(2014) ～ R11(2029)				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	2 河川	都市施設課	
施策の目的				
災害に強い河川の維持管理				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ 富良野市では 122 河川を管理しており、以前より災害復旧事業、農業河川事業、治山事業により護岸整備をしていますが、事業を行った河川は 64 河川で、流路延長としては、ほとんどが天然河川のままの状況にあります。 ○ 整備されている河川の経年劣化が進み、更に近年のゲリラ豪雨等により河岸の崩壊や土砂埋塞が年々著しい状況となっており、河川維持管理計画を策定し、豪雨災害に強い河川環境の整備を行う必要があります。				
施策の展開方向				
1 . 河川環境の整備 ・ 河川が流末となっている市街地排水路を整備し、浸水害を未然に防ぎます。 ・ 計画的な河川の護岸修繕や河床浚渫を行い、豪雨災害等の未然防止を図ります。 ・ 河川愛護組合による各種事業を推進します。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	3 公園	都市施設課	
施策の目的				
安全で快適な公園の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 12)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ 市内には 92 公園 (都市公園 70 ・ その他の公園 15 ・ 緑地等 7) があり、老朽化した遊戯施設、管理施設等の維持 ・ 更新、便益施設等の維持管理清掃を行っています。 ○ 遊戯施設は計画に基づき更新を行っていますが、それ以外の施設 (照明灯 ・ 外柵 ・ ベンチ等) の老朽化も進んでいるため、計画的な公園施設の提供が必要となります。				
施策の展開方向				
1 . 公園環境の整備				
・ 公園内の芝、樹木、遊戯施設等の維持管理を行い、自然環境と調和した保全形成を図ります。 ・ 公園内樹木の定期的な剪定を行い、街並みと調和した公園空間を創出します。 ・ 公園施設の機能保全と安全性確保により、安心 ・ 安全な遊び場を提供します。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市公園施設長寿命化計画／ H25(2013) ～ R10(2028)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	4 上下水道	上下水道課	
施策の目的				
安全な上下水道の安定供給と持続性の確保				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
汚水処理 人口普及率	(下水道処理人口＋ 合併処理浄化槽人口)÷ 行政人口	91.9%	94.3%	96.7%
※参考(R1)：全国平均 92.6% 全道平均 96.2% 5 万人未満 82.7%				
現状と主要課題				
○ 地域内人口の減少、少子高齢化や観光客の減少は、料金収入の減少となり上下水道事業経営に大きな影響を及ぼします。 ○ 各施設や管路の老朽化が進む中で、更新財源の確保が課題となっています。 ○ 各施設の更新計画により「状態監視保全、時間計画保全、事後保全」を基本に、電気や機械設備の更新について優先順位を定め実施していますが、交付金の削減等もあり遅れが生じています。 ○ 施設管理や経営管理上の技術継承(技術系・事務系)について、経験値の不足が課題となっています。 ○ 災害時における内水氾濫や停電対策等について、機材を整備しているが運搬・設置や有資格者が不足となっています。 ○ 高齢化が進む「地域水道組合」の持続性確保が重要となります。 ○ 下水道処理区域外における汚水処理について、合併処理浄化槽の普及促進が課題となります。 ○ 将来的に他団体との広域化、共同化について検討し、可能性を探る必要があります。				
施策の展開方向				
1.安全な水道水の供給 ・ 老朽化した取水・配水ポンプやろ過設備、計装機器等の計画的な更新を進めます。 ・ 漏水状況に対応した老朽管の計画的な更新を進めます。 ・ 濁度上昇時及び水質悪化時の対処知識の向上と継承による、水質管理の徹底を図ります。 ・ 地域水道組合との連携強化による持続性を確保します。 2.計画的な下水道事業の推進と水環境保全 ・ 交付金事業を活用し、老朽化した汚水処理施設の計画的な設備更新を図ります。 ・ 下水道管路への異物混入防止と不明水の浸入防止対策を推進します。 ・ 放流水(処理水)の水質管理と汚泥の再利用を促進します。 ・ 内水氾濫防止のため、雨水幹線管理を拡充します。 ・ 処理区域内未接続者の解消と処理区域外における合併処理浄化槽の普及促進を図ります。 (上下水道共通事項) ・ 広域化、共同化の調査研究を進めます。 ・ 安定した事業収入を確保します。 ・ 経営管理や機材操作が可能な人材を育成します。 ・ 2050 年ゼロカーボンシティへ向けた再生可能エネルギー導入を検討します。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市水道、簡易水道、公共下水道、特定環境保全公共下水道経営戦略／ H28(2016) ～ R7(2025) ◆ 富良野市水道事業認可／ S37(1962) ～ ◆富良野市公共下水道事業計画／ S54(1979) ～ ◆ 富良野市下水道ストックマネジメント計画／ R1(2019) ～ R5(2023) ◆ 富良野市上水道水安全計画／ H30(2018) ～ ◆富良野市水道ビジョン／ R2(2020)～ R11(2029) ◆ 富良野市水質検査計画／毎年度 ◆富良野市水道水供給 HACCP 計画／ R2(2020)～ ◆ 富良野市下水道事業業務継続計画／ H28(2016) ～ ◆ 富良野市上下水道事業新型インフルエンザ等対策行動計画／ R1(2019) ～ ◆ 富良野市生活排水処理基本計画／ R5(2023) ～ R14(2032)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	5 都市計画	都市建築課	
施策の目的				
富良野らしい良好な都市計画の形成				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ 都市計画は、規制や誘導により秩序ある効果的な土地利用を図るとともに、市街地の無秩序な拡大の抑制と整備事業の実施により住み良いまちをめざすものであり、現在、富良野市の都市計画区域は 2,195ha で、11 種類の用途地域や特定用途制限地域、景観地区、地区計画等の規制があります。 ○ 総人口の減少等に伴い、都市計画区域内の人口も減少に転じており、市街地の低密度化が進むことで地域経済の衰退が懸念されています。今後、拡散した居住者の生活を支えるインフラ整備や市民サービスの提供には課題があり、高齢化に対応したコンパクトなまちづくりが必要となります。				
施策の展開方向				
1.富良野らしい都市計画の形成				
・ 秩序ある効果的な土地利用を図り、住み良いまちづくりを進めます。 ・ 「富良野市立地適正化計画」に基づく居住誘導区域と都市機能誘導区域への緩やかな誘導を図っていきます。 ・ 「東 5 条 3 丁目地区市街地再開発事業」の事業実施に向けて必要な都市計画を定めます。				
主要な個別計画等				
◆ 第 3 次富良野市都市計画マスタープラン／ R3(2021) ～ R22(2040) ◆ 富良野市交通バリアフリー基本構想／ H16(2004) ～ ◆ 富良野市立地適正化計画／ R5(2023) ～ R22(2040)				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	6 中心市街地	都市建築課	
施策の目的				
コンパクトシティの推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
都市計画区域内 人口比率	全市人口に占める 都市計画区域内の 人口割合	78.6% ※R3 実績値	80.3%	82.1%
現状と主要課題				
○ 平成 20 年から約 11 年間継続してきた中心市街地活性化基本計画（認定基本計画）は、約 87%の事業実施実績をもって令和元(2019)年度で計画期間を終了しました。 ○ この間、認定基本計画に基づき核拠点整備事業として「フラノマルシェ」整備事業、東 4 条街区地区市街地再開発事業、サンライズパーク整備事業、「コンシェルジュ・フラノ」整備事業の各事業を公民連携により取り組み、「富良野流コンパクトシティ」＝「利便性と機能性に富んだ、歩いて暮らせるまちづくり」を推進してきました。 ○「東 5 条 3 丁目地区市街地再開発事業」については、当初の予定(平成 26 ～ 30 年度)から遅延しておりましたが、令和 3 年度には東 5 条通を中心とするエリアの整備方針と市街地再開発事業予定地区を重点整備地区と位置づけた「富良野市地区再生計画」を策定し、令和 4 年度には事業計画の素案となる「(仮)東 5 条 3 丁目地区街区整備計画」を策定しました。 ○国は、既成市街地における公共空間の整備・管理、情報発信など公民連携によるまちづくりを推進する目的で都市再生推進法人制度を創設しています。富良野市においても令和 4 年度から、都市再生推進法人の指定を開始しました。 ○今後もコンパクトシティ形成に向けて、「富良野市立地適正化計画」を基本に都市全体を見渡した、居住機能や都市機能の誘導、公共施設の再編、医療・福祉・子育て支援、都市防災など、まちづくりに資する多様な関係施策との連動や相乗効果が発揮されるよう、公民連携によるまちづくりを継続していく必要があります。				
施策の展開方向				
1.多機能集約都市の形成 ・国が掲げているウォーカブル推進都市（居心地がよく歩きたくなるまちなか）と併せ、「歩いて暮らせるまちづくり」を推進します。 ・中心市街地への都市機能の集約や公共空間等の都市の冗長性を確保する市街地整備を推進し、まちの価値や持続性を高める複合的更新を図っていきます。 ・TMO(まちづくり会社)及び都市再生推進法人と連携した、中心市街地のエリアマネジメントの展開を図っていきます。 2. まちなか居住の推進 ・まちなか居住の推進を継続することにより「富良野市立地適正化計画」に基づく人口密度の維持と市民の生活利便性の維持確保に努めます。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市都市計画マスタープラン／ R3(2021) ～ R22(2040) ◆ 富良野市立地適正化計画(予定)／ R5(2023) ～ R22(2040) ◆ 富良野市地区再生計画／ R4(2022)～ ◆ 東 5 条、3 丁目地区街区整備計画／ R5(2023)～				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	1 都市基盤	7 地籍調査	地籍調査課	
施策の目的				
地籍調査の円滑な推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
地籍調査 完了進捗率	調査完了面積 ÷ 調査対象面積	8.32%	11.66%	23.67%
現状と主要課題				
○ 地籍調査を完了していない市町村において、多くは古い測量成果を基に土地情報を登記しているため、現状の土地利用状況との乖離が発生し「土地境界トラブル」「課税の不公平」「災害復旧の遅延」等が問題となっています。 ○ 富良野市においても、現状の土地利用状況と登記情報との乖離により、農地等の土地処分に支障をきたしていることから、平成 24 年度から地籍調査事業を「東山地区」より開始しました。 ○ 平成 24 年度から令和元年度の 8 年間に、富良野市地籍調査対象面積の 8.32%を調査完了しているが、地籍事業費の大半を国・北海道からの補助金が占めるため、政策による影響を受けやすく調査の進捗率は当初予定より低い水準で推移しています。				
施策の展開方向				
1.地籍調査の推進				
・ 令和 12 年度に「東山地区」の地籍調査完了を目指します。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市地籍調査事業全体計画／ H24(2012) ～ R31(2049)				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	2 住宅	1 住宅	都市建築課	
施策の目的				
良好な居住環境の形成				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
多世代同居住宅 新築・中古住宅 購入補助件数	申請件数	3 件	4 件	--
現状と主要課題				
○ 老朽化した公営住宅が多く存在し、良好な居住環境を維持するための維持管理コストがかさむため、計画的に建替え及び改修を行い維持費の縮減が必要となっています。 ○ 富良野市住宅改修等促進助成条例に基づき、住宅の改修工事に係る費用の一部を助成することにより、住宅改修を促進し、居住環境の向上、地域経済の活性化及び消費喚起を行っています。多世代同居による生活環境の向上を一層推進するため、令和3年度より多世代同居住宅取得等補助金の対象に「近居」を拡充しています。 ○ 耐震改修工事は、昭和 56 年以前に着工された住宅の除却は補助事業により耐震化率の向上につながっていますが、既存住宅の耐震改修は耐震補強をするためのコストが高いため進んでいません。 ○ 富良野市における住宅政策の目標、推進方針を定め、具体的な住宅施策を推進するため「富良野市住生活基本計画」を令和4年度に改定しました。				
施策の展開方向				
1. 計画的な公営住宅の維持管理 ・ 富良野市公営住宅等長寿命化計画に基づき、計画的に予防保全の改修等を行います。 2. 住宅支援の推進 ・ 住宅改修促進助成は、居住環境の向上、多世代同居による生活環境の向上、地域経済の活性化及び消費喚起の観点から継続的に実施します。また、「富良野市地球温暖化対策実行計画」に基づく、温室効果ガス削減に寄与する仕組みを検討していきます。 ・ 助成制度等の効果的な情報発信を行います。 3. 新たな住宅支援制度の検討 ・ 市有施設跡地等の有効活用にも寄与する、子育て・定住施策と連携した住宅施策の展開を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市公営住宅等長寿命化計画／ R3(2021) ～ R17(2035) ◆ 富良野市耐震改修促進計画／ R4(2022) ～ R8(2026) ◆ 富良野市住生活基本計画／ R5(2023) ～ R14(2032)				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	2 住宅	2 空家	都市建築課	
施策の目的				
空家対策の推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 12)
空家率	実態調査	6.8%	6.0%	5.0%
現状と主要課題				
○ 近年、地域における人口の減少や既存の住宅・建築物の老朽化に伴い、長期間使用されていない住宅・建物が年々増加しています。 ○ 少子高齢化に伴い、子育て世代の市外流出や親世代の高齢者施設入所等により、所有者の目が届かない空家が増えています。 ○ 適切な管理が行われないまま放置されている空家は、防災・防犯・安全・環境・景観の阻害等多岐にわたる問題を生じさせ、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼしているものもあり、早急な対策が求められています。 ○上記の課題に対応するため、富良野市では令和3年度に「富良野市空家等対策計画」を策定しました。				
施策の展開方向				
1. 空家対策の推進				
・ 空家の存在、空家の状況把握を図ります。 ・ 管理不全により危険な状態となった空家の緊急安全措置及び所有者との連携を図ります。 ・ 空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、行政代執行まで視野に入れた特定空家への対応を図ります。 ・ 空家発生の一因として少子高齢の進展と密接な結び付きがあることから、福祉関係団体や福祉部局との情報共有をはじめとする横断的な連携により、空家等対策の初動態勢の充実を図ります。 ・ 「富良野市立地適正化計画」と連動した空家対策の推進により都市のスポンジ化防止を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市空家等対策計画／ R4(2022) ～ R8(2031) ◆富良野市立地適正化計画／ R5(2023) ～ R22(2040)				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	3 地域公共交通	1 地域公共交通	企画振興課	
施策の目的				
総合的な地域公共交通体系の構築				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
-	-	-	-	-
現状と主要課題				
○ JRの利用者は減少しており、「単独維持困難な線区」に根室線、富良野線が対象となっています。 ○ 路線バスは市内に4路線あり、利用者は減少傾向にあります。 ○ 山部地区、島の下地区の住民に対し、委託によりコミュニティカーを運行し、東山地区は、地域運営によりコミュニティカーを運行しています。 ○ 山部地区の小学校、東山地区の義務教育学校に対し、委託によりスクールバスを運行しています。 ○ 公衆浴場対策として、ハイランドふらのに向けたバスを委託により運行しています。 ○ 高齢者の免許返納後の地域の公共交通のあり方が課題となっています。 ○ 外国人観光客に対する2次交通が課題となっています。 ○路線バスやコミュニティカー等の市内公共交通網を支える運転手の不足 ○利用者数の減少に伴う市内公共交通網の維持に係る経費の増加				
施策の展開方向				
1.総合的な地域公共交通体系の構築				
・ 地域公共交通計画を策定し、各施策と連動した地域公共交通ネットワークの形成を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市地域公共交通計画／R5(2023)～				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	4 情報ネットワーク	1 情報ネットワーク	企画振興課 スマートシティ戦略室	
施策の目的				
情報ネットワーク環境の充実と活用				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
市内光回線の整備割合	FTTH 利用可能世帯率	92.58%	100%	100%
市民の利便性向上のためのデジタル化導入事例数	導入実績	3 事例	5 事例	10 事例
現状と主要課題				
○ 平成29年度、光回線未整備地区において、学校等公共施設までの光回線の整備をしました。(平成30年5月よりサービスを提供) ○ 令和2年度より、残りの光回線未整備地区において、光回線の整備をしました。(令和4年7月よりサービス提供) ○ 令和5年1月末をもってADSL回線が終了しました。 ○ 市内に3つのテレビ組合（島ノ下テレビ組合、東山テレビ共同受信施設組合、西達布つつじ地区テレビ協同組合）がありますが、組合員数の減少や組合員の高齢化が進んでいます。 ○ 富良野市が抱える諸課題に対して、ICT等の技術を活用して、持続可能な都市としてスマートシティを目指す必要があります。				
施策の展開方向				
1. 情報ネットワーク環境の充実 ・ 市全体を網羅したICT環境の充実を図ります。 ・ 難視聴地域におけるテレビ組合の負担軽減を図ります。 2. 地域 ICT の推進 ・ すべての市民が健康で、生きがいを感じ、幸せを実感できまちづくりに向けて、ICTを活用することで、健康の見える化と主体的な健康づくりを促進し市民の健康寿命の延伸を図ります。 ・ マイカーに頼れない高齢者等の交通弱者が、ICT等を活用することで、多少の不便を感じながらも足の確保を可能とする地域交通の充実を図ります。 ・ ICTの恩恵を多くの市民が享受できるスマートシティをめざし、市民からの問合せや市民に対する情報提供ツールとしてSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用しながら、情報配信の改善を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市ICT利活用推進計画／R2(2020)～R4(2022)				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	5 安全安心	1 消防・救急	消防署	
施策の目的				
消防力及び救急体制の強化				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
救急救命講習会 実施回数	実施実績	14 回	60 回	65 回
現状と主要課題				
○ 消防を取り巻く環境は、局地的な自然災害の増加や地震を始めとする大規模災害が懸念され、災害の大規模化・複雑化を呈し、市民の安心・安全を守るべく消防業務の一層の高度化が必要となります。 ○ 消防施設、消防車両、救急車両（高度救命資機材）の老朽化への対応と維持管理が課題となっています。 ○ 消防水利（上水道消火栓）の老朽化及び水利不足地域の整備が課題となっています。 ○ 大規模化・複雑化する災害及び高度化する救命救急に対応すべく、人材の育成強化が急務となっています。 ○ 地域防災の担い手となる消防団員が減少傾向であり、確保対策が必要となっています。 ○ 火災発生件数の増加、火災被害の抑制が課題となっています。 ○ 救命率の向上及び高度化、救急件数の増加と救急車の不適正利用が課題となっています。				
施策の展開方向				
1. 消防力の強化 ・ 広域消防体制による消防力の強化を図ります。 ・ 消防施設、消防水利、消防車両などの計画的な整備、更新を図ります。 ・ 消防学校教育等による人材育成及び強化を行います。 ・ 防火対象物への立入検査、飲食店等への防火指導を行います。 2. 救急体制の強化 ・ 市民に適切な応急手当や適正な救急車利用の普及啓発を行います。 ・ 病院との協力体制の強化、救急救命士の養成、高度救急医療資機材の整備による救急業務の高度化を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野広域連合第3次広域計画／R1(2019)～R5(2023)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	5 安全安心	2 防災・減災	総務課	
施策の目的				
防災対策の推進、防災意識の啓発と高揚				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
防災出前講座 開催回数	開催実績	10 回	10 回	15 回
現状と主要課題				
○ 地域コミュニティの希薄化により、地域で共助を維持することが難しくなっています。 ○ 災害対策本部、避難所等の円滑な運営の対応力、熟練度、職員の認識度の向上が求められています。 ○ 自主防災組織の組織率の向上と活性化、防災に関わる人材の育成が必要となります。 ○ 避難所以外(地域会館等)での電源の確保が必要となります。 ○ 感染症拡大防止のため、開設する避難所の確保と衛生対策用品の充実が必要となります。 ○ 計画的な食糧備蓄と資機材の充実が求められています。				
施策の展開方向				
1.防災対策の推進 ・ 防災関係機関との連携・協定により災害時における支援体制の構築を図ります。 ・ 情報伝達手段の整備・拡充を図り、市民への情報伝達を確保します。 ・ 避難所や緊急避難場所の確保を行うとともに、計画的な備蓄品や資機材の整備を進めます。 ・ 災害時における避難行動要支援者に対する支援を適切かつ円滑に進めるため、関係機関との協力体制を構築します。 ・ 市民が参加する防災訓練を実施するとともに、災害対策本部訓練を継続します。				
2.防災意識の啓発と高揚 ・ 自助として、市民の防災意識及び防災知識の向上を図ります。 ・ 共助として、自主防災組織と連携し、組織の活性化を通じて地域住民の防災意識の醸成を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市地域防災計画／ S38(1963) ～ ◆ 富良野市国民保護計画／ H19(2007) ～ ◆ 富良野市業務継続計画／ R1(2019) ～ ◆ 富良野市強靱化計画／ R2(2020) ～ R6(2024) ◆ 富良野市備蓄計画／ R4(2022) ～ R8(2026)				



主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	5 安全安心	3 地域コミュニティ	コミュニティ推進課	
施策の目的				
地域コミュニティの再構築と活性化				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
自治会・町内会 加入率	広報配付戸数割合	84.9%	85%	85%
現状と主要課題				
○ 連合会、町内会・自治会は、地域の課題解決や地域活動に大きな役割を果たしています。 ○ 生活や価値観の多様化など時代・環境の変化により、地縁住民同士の交流が希薄化しています。 ○ 少子高齢化等に伴うコミュニティ機能の低下による組織の機能維持、活動に地域格差があり、役員のなり手不足が課題となっています。				
施策の展開方向				
1.地域コミュニティの再構築と活性化				
・ 自治会・町内会への加入を促進します。 ・ 地域会館などの活動拠点の整備、活動への補助など自治会活動への支援を行います。 ・ 行政と自治会・町内会との役割分担と体制を見直し、自治会・町内会の負担軽減を図ります。 ・ 自治会・町内会や市民活動団体などと多様化する地域課題を解決するために、共創・協働の仕組みづくりに取り組みます。				
主要な個別計画等				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	5 安全安心	4 交通安全	コミュニティ推進課	
施策の目的				
交通安全対策の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
市内人身事故 発生件数	富良野警察署	24 件	20 件	20 件
現状と主要課題				
○ 交通事故における人身事故件数と傷者数は減少傾向にありますが、物損事故は増加傾向にあります。 ○ 観光客、特に外国人観光客の増加により、レンタカーによる事故やバイクによるツーリング中の事故が増えています。 ○ ドライバー(車・自転車)、歩行者を含めた順法意識の低下による事故が増えています。 ○ 高齢化の進展に伴う運転操作ミスによる事故や判断能力の低下による歩行者事故が増加しています。				
施策の展開方向				
1.交通安全対策の充実				
・ 交通ルールの遵守に向けた啓発を交通安全協会と連携して取り組みます。 ・ 高齢者の安全対策に取り組みます。				
主要な個別計画等				
◆ 第 11 次富良野市交通安全計画／ R3(2021) ～ R7(2025)				



主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	5 安全安心	5 防犯	コミュニティ推進課	
施策の目的				
防犯対策の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
市内刑法犯 認知件数	富良野警察署	43 件	42 件	40 件
現状と主要課題				
○ 防犯組織の充実と防犯思想の普及徹底を図り、自治会・町内会、自主防犯団体、事業所等と連絡し、防犯活動・暴力追放運動の啓蒙啓発に取り組んでいます。 ○ 地域社会における人間関係の希薄化により、市民の防犯意識の低下、地域のつながりの欠如による防犯体制が弱体化しつつあります。				
施策の展開方向				
1.防犯対策の充実 ・ 防犯活動・暴力追放運動の啓蒙啓発を継続して取り組みます。 ・ 防犯カメラの普及など地域の安全を地域で守るための新たな取り組みを推進します。 ・ 地域単位での防災防犯組織の結成を助長します。				
主要な個別計画等				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	5 安全安心	6 市民相談・消費生活	市民相談室 市民協働課	
施策の目的				
市民相談・消費生活相談の充実				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
常設窓口数	市民相談室	1 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所
斡旋解決率	消費生活センター	97%	100%	100%
現状と主要課題				
【市民相談】 ○ 市民相談室は、誰でも気軽に相談できる日常相談窓口として、専任の相談員 1 名が対応しています。 ○ 市民相談室では、相続問題、離婚・家庭問題、金銭・契約問題等、年間約 150 件の相談を受け、内容により関係する担当部署を紹介し、また、法的判断が必要な場合は、月 1 回開催の旭川弁護士会による無料法律相談を紹介しています。 ○ 市民相談の内容は多岐に渡ることから、相談員には行政経験他、多分野の知識が求められます。 【消費生活相談】 ○ インターネットや携帯電話の普及、販売方法の多様化による架空請求や契約トラブル、核家族化等に伴う高齢者世帯の増加により、特殊詐欺などの新たな消費者被害が発生しています。 ○ 広報等で啓発や情報提供を行っていますが、海外サイトの増加や特殊詐欺の手口が巧妙化し、被害に遭う市民が減少しないため、情報提供の工夫が必要となります。				
施策の展開方向				
1.市民相談の充実 ・ 相談したい方がいつでも気軽に相談できる窓口を常設します。 ・ 相談員のスキル向上を図ります。 ・ 市内の各相談窓口との連携による「市民向け相談窓口連絡会議」を開催し、相談体制の充実を図ります。 2.消費生活相談の充実 ・ 消費生活相談員の研修機会を充実させ、資質の向上を図ります。 ・ 子どもから高齢者まで様々な機会で消費者教育の推進に取り組みます。 ・ 消費生活の講座や情報の充実を図ります。				
主要な個別計画等				



基本施策 - 想う。みがき合う。まちの WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	6 行財政	1 行政運営	スマートシティ戦略室 総務課・企画振興課	
施策の目的				
効率的な行政運営				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
北海道市町村研修 センター研修修了者数	受講修了者数	25 名 / 年	30 名 / 年	30 名 / 年
デジタル化により効率化 した行政の業務数	導入実績	3 業務	5 業務	10 業務
市長トーク 開催件数	開催実績	5 回 / 年	6 回 / 年	7 回 / 年
現状と主要課題				
【組織・人材】 ○ 行政需要の拡大、市民ニーズの多様化、専門的な領域への対応が求められ、柔軟な組織対応や専門職の育成が必要となっています。 ○ 北海道市町村職員研修センターにおける自治体職員向けの各種研修への参加、職場内研修などにより職員の意識改革や人材育成を図っています。 ○ 近年は採用内定者の辞退により、職員募集を年度内に数回行うことが多くっており、民間企業の手法を用いた職員採用試験の方法を検討する必要があります。 【効率化】 ○ 文書管理システム及び財務会計システムによる電子決裁が始まり、紙文書の削減が図られている。 ○ ICT 等による業務プロセスの抜本的な改革を図り、効果的・効率的な行政運営を行っていく必要があります。 【市民参加】 ○ 富良野市情報共有と市民参加のルール条例に基づき、情報共有を図りながらパブリックコメント手続き、審議会への積極的な公募枠の設定など市民と市がともに考えともにつくりあげるまちづくりを進めてきました。 【広域行政】 ○ 平成25年12月、富良野地区定住自立圏形成協定の締結し、富良野地区定住自立圏共生ビジョンを策定しています。 ○ 平成27年4月、富良野圏域連携協議会を発足し、圏域の振興に関する連携を実施しています。				
施策の展開方向				
1. 効率的な組織体制の構築 ・ 行政需要に応じた業務改善、組織活性化による効率性高め、柔軟性のある組織体制の確立を図ります。 2. 共創・協働する職員の人材育成 ・ 継続的な職員研修を実施し、人事評価制度の定着化を図り、人材育成を推進します。 3. 事務事業の改善、ICT化 ・ ICT を活用した事務効率の改善による市民サービスの向上を図ります。 4. 市民参加と情報発信 ・ 効果的な広報活動により市民との情報共有を図りながら、「市長トーク」や地域懇談会の実施など広聴活動、市民参加手続により市民と市がともに考えともにつくりあげるまちづくりを進めます。 5. 広域連携の推進 ・ 富良野圏域の連携による効果的・効率的な行政運営を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 第5次定員適正化計画／R3(2021)～R7(2025) ◆ 富良野市ICT利活用推進計画／R2(2020)～R4(2022) ◆ 第2次富良野地区定住自立圏共生ビジョン／R1(2019)～R5(2023) ◆ 富良野広域連合第3次広域計画／R1(2019)～R5(2023)				



主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
想う。みがき合う。 まちの WA!	6 行財政	2 財政運営	財政課 税務課 総務課	
施策の目的				
健全な財政運営				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R8)	8 年 後 (R12)
税務の電子化 対応項目数	対応実績	5 項目	12 項目	13 項目
ふるさと納税 寄附額	寄附実績	約 3.3 億円	8 億円	10 億円
現状と主要課題				
【財政状況】 ○ 経常経費等により予算が硬直化してきており、歳入不足を基金で補っており、基金残高が減少しています。 ○ 人口減少・少子高齢化、市民ニーズの多様化、地域力の低下、働き方改革の推進などにより行政需要が高まっており、需要額が増加しています。 ○ 老朽化する公共施設・インフラ施設の維持補修や更新費用の増加が見込まれており、財政負担の縮減や平準化が必要となります。 ○ 国は税の賦課、徴収業務の効率化を行うために電子化、申請のオンライン化を強く推進しているため、今後の対応が課題となっています。 【ふるさと納税】 ○ 平成 28 年 12 月からポータルサイトを活用した募集を開始したことにより、寄附額が増加しました。 ○ 寄附募集はポータルサイトを介していますが、ポータルサイトが増えることにより、管理業務が複雑化しています。 ○ 返礼品として地域特産品を活用していますが、一部の特産品に留まっており、富良野の魅力を伝えきれていない状況にあり、返礼品の内容や品物確保などを充実させる必要があります。 ○ 地域特産品を主な返礼品としてしますが、今後、体験型の返礼品を主なさらに加えることにより、交流人口、関係人口の増加を図る必要があります。				
施策の展開方向				
1.健全な財政運営の推進 ・ 最少の経費で最大の効果を発揮できるよう、効率的で持続可能な財政運営を進めます。 ・ 計画的で健全な市債の発行を行います。 ・ 公共施設等の維持管理・更新等に係る経費の平準化を図ります。 ・ 基金残高の推移を見込み、計画的な基金の確保、運用を行います。 ・ 税業務で使用している各電算システムの改修を行い、国の電子化、オンライン化への対応を図ります。 2.財源確保の推進(ふるさと納税) ・ 関係団体と連携し、富良野市の魅力を生かした返礼品の充実により、寄附額の増加を図ります。 ・ 体験型返礼品を開発し、ふるさと納税をきっかけとした交流人口・関係人口の増加を目指します。 ・ 効果的な募集方法を検討します。 ・ 継続して寄附をしてもらうため、リピーターの確保対策を検討します。 ・ 寄附者に訴求する使い道を設定します。				
主要な個別計画等				



感じる。
つなげる。
自然のWA!

主 軸	分 野			施 策		
	分野名		分野の方針		施策名	施策の目的
感じる。 つなげる。 自然のWA!	1	自然環境	人と自然、地球にやさしいまち の実現	1	地球温暖化・環境保全	地球温暖化対策の推進、環境負荷の少ない持続的な社会の構築
				2	ごみ減量・再資源化	ごみ減量化、リサイクル対策の継続的な推進
				3	景観保全	富良野らしい良好な景観の形成



基本施策 - 感じる。つなげる。自然の WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
感じる。つなげる。 自然の WA!	1 自然環境	1 地球温暖化・環境保全	環境課	
施策の目的				
地球温暖化対策の推進、環境負荷の少ない持続的な社会の構築				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R4)	目 標 値	
			4 年 後 (R4)	8 年 後 (R12)
富良野市全体 CO2 排出量	環境白書	199 千 t/CO2	189 千 t/CO2	147 千 t/CO2
現状と主要課題				
○ 空知川等の主要河川の水質分析、市内 3 カ所のアスベスト濃度測定、市内主要道路の自動車騒音測定を毎年実施しています。 ○ 町内会による年 2 回の環境美化運動や不法投棄パトロール等を実施しています。 ○ 地球温暖化対策として、本市における温室効果ガス(CO2)の総排出量を算出し、公表すると共に木質バイオマスストーブや太陽光発電の導入に対しての補助を実施しています。 ○ 環境保全の周知活動として、ふらの環境展等のイベント開催や富良野市環境白書の公表を行っています。 ○ 地球温暖化対策では、令和 3 年 4 月に宣言しました「2050 年ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市民の省エネ行動への促しや更なる再生可能エネルギーの導入など、様々な脱炭素に向けた取組が求められています。 ○ 環境保全活動の意識向上を図るため、適切な手法を用いて情報発信していくことが求められています。				
施策の展開方向				
1.地球温暖化対策の推進 ・ 家庭や事業所における省エネルギー対策を促進します。 ・ 地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入を促進します。 ・ 市民の意識を醸成し行動変容につながる啓発活動を推進します。 ・ CO2 の吸収源となる森林の保全、育成等を推進します。 2.自然に配慮した持続的な環境保全活動の推進 ・ 水環境を保全します。 ・ 良好な大気や生活の環境を維持します。 ・ 市民、事業者、行政の協働による自主的な環境活動を支援します。				
主要な個別計画等				
◆ 第 3 次富良野市環境基本計画／ R3(2021) ～ R12(2030) ◆ 第 2 次富良野市地球温暖化対策実行計画／ R3(2021) ～ R12(2030) ◆ 富良野市生活排水処理基本計画／ H25(2013) ～ R4(2022) ◆ 富良野市地域新エネルギービジョン／ H22(2010) ～				



基本施策 - 感じる。つなげる。自然の WA !

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
感じる。つなげる。 自然の WA!	1 自然環境	2 ごみ減量・再資源化	環境課	
施策の目的				
ごみ減量化、リサイクル対策の持続的な推進				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
資源化品の 市内利活用率	リサイクル概要 より算出	35%	41%	50%
現状と主要課題				
○ 家庭ごみの排出量は新型コロナウイルスの影響等により減少しています。 ○ 市民 1 人当たりのごみ排出量は全道、全国平均より低い数値となっていますが、ごみ減量が進んでいない状況です。 ○ リサイクル率は概ね 90% 前後を推移しています。 ○ 3 R 推進の一環として再生衣料品販売やフリーマーケットを開催し、再使用に努めています。 ○ 固形燃料ごみから製造している RDF (固形燃料) の利用先から品質改善 (塩分) が求められています。また、RDF 以外にもリサイクル品の品質向上が求められています。 ○ 観光客や外国人による「ごみポイ捨て」や「分別トラブル」が増えています。 ○ ごみ処理施設の老朽化や埋立処分場満量に伴う施設更新、廃止焼却炉の未解体が課題となっています。				
施策の展開方向				
1. ごみ減量化、リサイクル対策の持続的な推進 ・ リサイクル品の市内利活用を拡大し、市民に分かりやすい「リサイクルの見える化」を推進します。 ・ 現在の資源化処理システムを基本にしながら、リサイクル品の品質向上を図ります。 ・ 複合素材品等の対策のため、適正処理に向けた調査を行います。 ・ 障がい者、高齢者等のごみ排出困難者への支援策を調査します。 ・ 市民や事業者へのごみ減量化やリサイクルに対・満量が近づいている埋立処分場の更新事業を進めます。 ・ 満量が近づいている埋立て処分場の更新事業を進めます。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市一般廃棄物処理基本計画／ H30(2018) ～ R4(2022) ◆ 富良野市分別収集計画／ R2(2020) ～ R6(2024) ◆ 第 2 次富良野生活圈一般廃棄物広域分担処理基本計画／ H30(2018) ～ R4(2022)				

主 軸	分 野 名	施 策 名	主 担 当 部 署	
感じる。つなげる。 自然の WA!	1 自然環境	3 景観保全	企画振興課	
施策の目的				
富良野らしい良好な景観の形成				
成果指標				
指 標 名	指 標 確 認 方 法	現 状 値 (R 4)	目 標 値	
			4 年 後 (R 8)	8 年 後 (R 1 2)
届出手続きの 遅延件数	届出手続きの 処理状況	0 件	0 件	0 件
現状と主要課題				
○ 富良野らしさの自然環境を守る条例(平成 2 年)を制定し、事業等による環境悪化や紛争を未然に防止し、自然環境を守ってきました。(令和 2 年 8 月、条例廃止) ○ 訪日外国人の増加、外国資本による開発行為や宿泊施設等の動きが活発化し、社会環境が変化してきているため、都市計画法に基づく、景観地区に北の峰エリアを指定しています。(平成 2 9 年 1 2 月) ○ 景観法に基づき、令和 2 年 8 月に富良野市景観条例、令和 2 年 1 1 月に富良野市景観計画を施行し、良好な景観の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。				
施策の展開方向				
1. 富良野らしい景観の形成 ・ 景観形成基準及び届出制度による景観誘導を図ります。				
主要な個別計画等				
◆ 富良野市景観計画／ R2(2020) ～				

主軸	分野	施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
輝く。 つながり合う。 ひとのWA!	1 子育て	1 子育て	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2 学校教育	1 小中学校教育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 高校教育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 特別支援教育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3 社会教育	1 家庭教育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 生涯教育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 文化財保護	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4 健康・医療	1 健康	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 地域医療	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	5 福祉	1 社会福祉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 高齢者福祉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 障がい者福祉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
創る。 まわす。 しごとのWA!	1 産業	1 農業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 林業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 商工業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		4 持続可能な観光地域	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		5 滞在型観光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		6 ワイン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2 雇用・労働	1 雇用・労働	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
想う。 みがき合う。 まちのWA!	1 都市基盤	1 道路	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 河川	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 公園	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		4 上下水道	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		5 都市計画	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		6 中心市街地	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		7 地籍調査	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2 住宅	1 住宅	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 空家	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3 地域公共交通	1 地域公共交通	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4 情報ネットワーク	1 情報ネットワーク	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	5 安全安心	1 消防・救急	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 防災・減災	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 地域コミュニティ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		4 交通安全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		5 防犯	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		6 市民相談・消費生活	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
感じる。 つなげる。 自然のWA!	1 自然環境	1 地球温暖化・環境保全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 ごみ減量・資源活用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 景観保全	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

市長メッセージ

第6次富良野市総合計画の策定にあたり

少子高齢化・人口減少、ICT（情報通信技術）の進歩は、私たちの想像を超えるスピードで変化しています。

平成から令和に変わり、新しい時代に向けて、人口増加を前提としたまちづくりではなく、既存資源を有効に活用しながら個性や魅力を磨き上げて、暮らしの質と活力を高めるまちづくりへ転換することが必要となっています。

社会情勢を的確に把握し、まちづくり戦略を長期的な視点で考える必要があり、これからの10年は、より良い形で未来の世代に引き継ぐための重要な期間となります。

第6次富良野市総合計画のまちづくりスローガンは…

「『美しい』のその先へ。WA！がまち、ふらの」です。

市民の価値観や課題が多様化する中で、地域の活力を維持・向上させ、次世代に元気な、魅力ある「富良野」を引き継いでいくためには、市民と行政が共に考え、アイディアを出し合い、共に創っていく、「共創」によるまちづくりを様々な主体と取り組んでいく必要があります。

また、デジタルの利活用は、市民の生活や環境の最適化を図り、持続可能な都市を構築していくものでありますが、あくまでも個人に配慮した運営方針のもと、富良野らしさを無くさないよう進めていかなくてはなりません。

市民と行政が一緒になって、「健康で生きがいを感じ、幸せを実感できるまちづくり」を推進していくためには、それぞれの個性や違いを理解し、同じ方向に向かって進んでいくことが大切となります。

健康で幸せな未来を創り出すために、始められることがあります。

みんなで『美しい』のその先を見に行きましょう！

令和3年3月

富良野市長

北 猛 俊





わたしの「一歩」
みんなの「一歩」

「美しい」のその先を
みんなで見にいこう